

濟生

「NEWSな濟生人」
小中高校で“生教育”を
講演1300回超

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1122



12

December 2022

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜財団

濟生会

済生会の 不易流行論

171

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani

取り残された障害

私の済生会の事務室に自閉症の人が描いた絵が掲げられている。フランスの画家オディロン・ルドンを思わせる鮮やかな色彩で、個性的な構図である。ひろしま美術館に展示されている「ペガサス、岩上の馬」を連想させる。

いた石井哲夫先生から贈られた絵である。法人の施設に同居する人の作品で、キャンバスから生命の躍動感が伝わる。20年以上前に嬉泉が経営する自閉症児施設を訪問した。日本で最初の認可自閉症児施設で石井先生の自閉症療育の哲学が貫かれている。千葉県袖ヶ浦市の自然豊かな広い敷地に立地され、利用者の自由な活動を促進する



ことに重点が置かれていた。パンやお菓子の製造、絵画や陶芸の芸術活動などのプログラムが組まれていた。石井先生は、自閉症を含め日本の発達障害研究の草分け的存在である。昭和50年代から長い間親しく教えていただいたが、ある日深刻な表情を浮かべて環境省の局長室に私を尋ねられた。どんな難事にも動揺されない先生だったので、よほど悩まれ続けたらどうか。東京都での発達障害支援センターの設立が、関係者の理解が得られず、暗礁に乗り上げていると絞り出すような声で話された。私は、すでに厚生行政を離れていたが、交流のある人に相談をするなど応援をした。

文科省が、平成24年に特別支援学校に在籍していない小中学生のうち約6・5%が発達障害の可能性ありと推計しているように、発達障害を抱える人は多い。しかし、国の対策は、身体障害、知的障害のような他の障害に比べ、著しく遅れてしまった。公的な施策の谷間に落ちた当事者や家族は、支援を受ける機関を探すのに疲れ果て、家の中に引きこもってしまうケースが珍しくない。

☆ ☆

11月16日、済生会は、港区のザ・プリンスパークタワー東京で「インクルーシブ社会を目指して」と題するシンポジウムを開催した。社会の分断が進む中、発達障害問題に代表されるように社会から排除、孤立する問題の解決方法を考えるためだった。この中で北海道済生会の榎引久丸常務理事は、北海道支部が企業や行政と連携をしながら発達障害児支援事業に積極的に取り組んでいると説明した。私は深い感銘を受けた。他都府県でもこのような事業の展開を心から期待したい。

昨日、 今日、 明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。
今日を未来へとつなげていくために。
私たちは、お一人おひとりの毎日を、
一つひとつの変化を、丁寧に見つめていきたい。
いつどんなときも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。
これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。



三井住友銀行

NEWSな濟生人

陳 央仁さん

小中高校で“生教育”を講演1300回超
〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院 産婦人科部長

06

済生会交差点

《地域活性プロジェクト》みんなで楽しく地元を元気に！中央病院が仕掛けるまちづくり／《いのちの授業》生まれてくるいのちはすべて大切。子どもも教師も参加型で学ぶ／《臨床検査技師のしごと》日常の検査・健診、コロナ最前線でも活躍。さらなる業務拡大も進行中／《ふくまる相談室》ひきこもりも介護も育児も生活困窮も。福祉の悩みなんでどうぞ

10

巻頭コラム 済生会の不易流行論

取り残された障害 理事長 炭谷 茂

03

済生会フェア

広島病院
香川県済生会病院

18

26

済生会主催「インクルーシブ社会を目指して」

20

ソーシャルインクルージョン

22

報告 生活困窮者問題シンポジウム

28

12月のたよりが聞こえる — シクラメン 表紙のことば 久保田真由美

05

この人 和田正人

30

口福につぼん 吉井省一

32

だれでもかんたん てづくりおもちゃ いまいみさ

34

TOPICS

36

載々、大雑報

70



12月のたよりが聞こえる

シクラメン

この季節、花屋の店先やスーパーの特設売り場にポインセチア

ンセチアは分かるが、シクラメンがなぜ今なのか。

アとシクラメンの鉢植えが並ぶ。クリスマス色のポインセチアは分かるが、シクラメンがなぜ今なのか。

俳句でも春の季語のはずだが、俳人・夏井いつき先生の「100年俳句日記」(Web)によれば、最近の歳時記で冬の季語にしているものがある、とのこと。「たしかに12月頃の花屋さんは、ポインセチア&シクラメンに彩られていますね。そういう意味での季節感ということなのでしょう」

地中海地方原産のシクラメンは明治になって日本に渡り来た。和名は、かがり火のような花の様子から付いた「篝火花」。もう一つが根に近い塊茎(デンブンを溜めた丸い茎)に由来

する「豚の饅頭」。こちらはブタが塊茎を食べるといので付いた英名「豚のパン」の意訳だ。

一般的なた花ではなかったが、1975年、布施明が歌った「シクラメンのかほり」(作詞作曲・小椋佳)の大ヒットで一挙に人気に火が付いた。歌が年末の音楽シーンを席捲し、以後、この時季にハウス栽培の鉢植えが店頭で並ぶようになった。本来、あまり香りのない花だったのに「かほり」のある品種も次々に生まれた。歌が売れば、あれこれ指摘も出る。いわく、古語は「かほり」でなく「かをり」が正しいのではないか。その通りなのだが、「かほり」にしてしまったのが鎌倉時代、しかも、あの藤原定家だそうだから、結局、どっちでもいいということになった。「かをり」といえば、横浜にある洋菓子のお店。こちらは、美智子上皇后が皇太子妃のときに、とてもお気に入りとのうわさが広がり、歌の「かほり」よりずっと先に人気を博した。言葉にも生死があり、それは人の営為と結びつく。夏井先生は「季語の盛衰や生き死は、人間の生活によって大きく左右されるのだと痛感いたします」と結んでいる。(Y)

表紙のことば

鉢植えは燭台とキャンドル

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

色の少ない時期に咲くシクラメンの花。寒い季節、細い茎の上に柔らかい曲線で5片の花びらを立ち上げ、その場所を少し明るくし、気持ちを暖かくしてくれる。キャンドルの炎を思わせます。花を囲む丸い葉も燭台のようです。100年前の貴婦人も「この花は篝火のような花ですね」と言ったそうです。12月ちょっと明るくちょっと暖かく、そんな気持ちで描いてみました。



題字協力：石飛博光

アートディレクション：
OVO INTERNATIONAL

小中高校で”生教育“を講演1300回超

〔茨城〕龍ヶ崎済生会病院 産婦人科部長

陳 央 仁 さん

龍ヶ崎済生会病院産婦人科部長の陳央仁先生は小・中・高校を訪問、児童・生徒・保護者・教職員に向けて、「命と自分自身を大切に生きる」ための「生教育」講演「いのちの授業」を2003年から実施。命の尊さを伝えたいと、予期せぬ妊娠や性感染症を防ぐ講演は1300回を超えます。陳先生に活動にかける思いを伺いました。

堀越 陳先生の「いのちの授業」はどんなものですか？
陳 小・中・高校に足を運んで、児童・生徒だけでなく保護者や教職員にも命の大切さを伝える「生教育」です。学年や年齢によって理解度も必要な知識も異なるので、それぞれに合わせた話し方や内容で、命の

誕生や性の知識を発信しています。
堀越 性教育でなく、生教育、なんです。命の大切さを伝えることが目的だからです。人はなぜこの世に生まれてきたのかを考え、自分を大切にしたい。それが望まない妊娠を予防する行動につながると思っています。

堀越 「いのちの授業」のきっかけは？
陳 20年ほど前に、地域のある荒れた中学校に勤める女性教師Aさんが妊婦健診で通院してきて「妊娠を機に、いのちの大切さを生徒に伝えたい。どうすればよいのか」と相談されたのが発端です。

堀越 そんな相談があったんですね。
陳 とっさに解決策は示せませんが、「できることからやろう、何かに使えるかも」と健診のたびに超音波映像を撮り貯めていきました。その中で「産休前の最後の授業で生徒たちに、私の胎児の心音を聞かせたい。機器を貸してほしい」と言われ、操作も簡単だし大丈夫だろうと了承しました。

堀越 学校で心音、面白いアイデアですね。
陳 ところが、病院から医療機器を貸し出す許可は下りませんでした。悩んでいると産婦人科部長の重光貞彦先生が「陳先生が学校に持って行って操作したら？」と背中を押してくれました。Aさんからも「学校に来てくれるなら、陳先生から生徒に命の大切さを話してほしい」と頼まれ、「素敵な女性になるために」の演題で15分話したのが最初です。2003年のことでした。

NEWSな済生人 Interview

堀越 それから20年、「いのちの授業」は

みんな愛されるために生まれた命の大切さ、自分の大切さを伝えたい

2021年度末で累計1321回にもなるそうですね。

陳 Aさんの夫も他の中学校の教師で、「ぜひうちにも来てほしい」と依頼され、道徳の時間に「いのちの授業」をしました。それを偶然、県教育委員会の指導主事が見て、「県の中学校新任教師向け研修でも話してほしい」と請われ、5年連続で講演しました。それを受講した教師の口コミで評判が広がり、県内の中学校などで講演を重ねています。

堀越 偶然的連鎖と口コミの影響ですか。
陳 その後も、日本産婦人科医会が主催する性教育指導セミナー全国大会が、2007年に茨城県で開催されたのを機に、県内で性教育に力を入れようという機運が高ま

りました。「いのちの授業」の講演回数が増えたのはこのころからで、今は年130回以上、1日に3校を駆け回ることもあります。訪問先の学校で昼食に給食をいただくこともよくありますよ。

堀越 学校給食！ それはいいですね。
陳 ほとんどは茨城県内ですが、時間が許す限りどこへも行きます。今度は岡山の県立高校で講演する予定があります。遠距離の記録更新です(笑)。

堀越 活動経費はどうしているのですか？
陳 病院の理解があり、出張扱いで活動させていただけるとありがたいです。県内や近県なら大体は車で行きますが、さすがに岡山は遠いので、クラウドファンディ



コロナ禍ではオンラインで命の大切さを伝えることも

ングの資金を活用します。

堀越 クラウドファンディングですか？
陳 「いのちの授業」の活動を支援してくれるNPO法人グッド・サマリタンと共同で講演の動画作成を目的に2022年2月に実施、75万円の支援金が集まりました。「子どもたちに命と自分自身を大切に生きることと伝える「生教育」講演」を収めた動画はYouTubeにアップしています。小学生向け動画は、命の誕生や親の愛がテーマ。

※新型コロナウイルス感染防止のため、当分の間、インタビューは当該施設の済生記者が務めます。また、写真撮影時のみマスクを外しています



授業の内容は年代ごとに内容を変えて行なう



妊娠中や産後ケア、あらゆる年代の女性のヘルスケアの支援をする

命を授かることは奇跡。
「命に感謝することは親に感謝すること」
を理解してもらった上で
病気や中絶などのリスクを伝える。

自分をさらけ出さなければ
子どもは聞いてくれない

中学生向けではそれに加えて性感染症や男女の性に関する相違点も話しています。高校生向けには人工妊娠中絶・避妊、子宮頸がん検診・ワクチンにも触れ、保護者・PTA向けには家庭でできる性教育なども伝えていきます。動画も講演と同様に、対象ごとに内容を変えています。

堀越 なぜこうした動画を？

陳 病院の理解があるとはいえ、講演の機会が増えようと、診療など業務に支障を来しかねません。現地に向くのが困難なときはこの動画を活用してほしいです。

堀越 陳先生の「いのちの授業」の特色は？

陳 一般的な性教育では、性感染症や予想外の妊娠・人工妊娠中絶など「怖い話」から始めがちです。それらは大事なことです。私は「人生はピラミッド」から話し始めます。

ピラミッド？

陳 幸せな人生の土台は「命」と「自分」です。こうして命を授かったのは奇跡であり、自分が一番大事だ、その土台の上にみんなの人生がある——というわけです。それを分かってくらった上で、病気や中絶などの怖いこともあるので気をつけようと言います。私の話はリスクを示して恐怖を植え付けるような性教育ではなく、自分を大切にして幸せに生きるために知ってほしい

の人生にプラスになるよう目指しています。

堀越 小学生にはどんな話を？

陳 小学生向けの講演は「君は愛されるために生まれた」です。残念ながら親から大事にされていないような子は「愛されるために生まれた」ということが分からない。講演に行く学校の中には、児童養護施設から通ってくる子もいるので、愛についてどう伝えるかに気を配っていて、よく陣痛の例え話をします。

陣痛ですか？

陳 陣痛は人生で最強の痛みで、おなかの子に対する大きな愛がなければ、乗り越えられるものではないと思うんです。だから子どもたちには、「親だつて人間。完全な人はいない。でも確かな痛を乗り越える大きな愛があった。それをぜひ知ってほしい」。そう伝えるんです。

堀越 親の愛に包まれて幸せに生まれたことを知れば、自分は生まれてきてよかったんだって思えますね。

陳 あるとき、児童養護施設から通う小学校6年生から感想文をもらいました。「ぼくは幸せです。なぜなら、うちの親は月一回面会に来てくれるからです。自分は生まれてきてよかった」。「なんで月一回しか来てくれないんだ。ひどい親だ」と思っても不思議じゃないのに、「来てくれるだけで幸せだ」と親への感謝を綴ってくれ

いことを伝える。生教育です。

堀越 命と自分を大切にという教えですね。

陳 はい。もう一つの特徴は自己開示です。一般的な性教育では、教える人が実体験を切り離して話します。そうしないと、生徒から「先生が初めて性交したのは何歳ですか？」と直球の質問が飛んでくる。でも、自分をさらけ出さなければ、子どもたちは本気で聞いてくれない。そのため、中学生向けの90分の講演のうち20分は、私の中学時代の話をしています。

堀越 どんなことを話すんですか。

陳 中学生のころは、グレてました(笑)。



たんです。これを読んで、私は「いのちの授業」を続けてきてよかったと心から思いました。

堀越 陳先生の言葉が響いたんですね。

陳 命に感謝することは、親に感謝することでもあります。小学校では最後に「おなかの中にいたみなさんは、お母さんと一緒に頑張つて生まれてきました。だから誕生日には「産んでくれてありがとう」とお母さんに伝えてください」と宿題を出します。

一番聞いてほしいのは保護者

堀越 性教育で大切なことは何ですか。

陳 医療と同じで、予防が重要です。中高生にもなる性と行為を経験する子も出てきますが、講演では未経験だが、興味津々な子を想定して話します。性感染症などのリスクもしっかり伝えることで、講演を思い出してブレイキになればいいと思っています。予防が目的なので、じわじわ効果が出るを期待し、話し続けています。

堀越 実は、私の弟も陳先生の講演を聞いた一人です。

陳 そうでしたか。私は土台づくりが大事と考え、小学生の講演を特に大切にしています。でも一番聞いてほしいのは保護者です。社会で生きていく上では「知(確かな学力)・徳(豊かな心)・体(健やかな体)」

【取材を終えて】

「誰もが愛されるために生まれた。自分を大切に生きてほしい」と話した陳先生。学生時代に経験したこと、産婦人科医として

台湾生まれの私は、勉強熱心な高校教師の父に厳しく育てられました。その父が茨城(筑波大学へ留学したのを機に、中二病の僕は非行に走つたんです。成績はみるみる下がり悪い友だちも増え、母からは「こんな悪い子になるなら産むんじゃないか」と言われるほどでした。

堀越 えー、ぜんぜん想像できません！

陳 ある時、親から「このまま自堕落な生活が続けるか、立ち直るため日本に行くか」と聞かれて……。台湾にいるのもつらかったので15歳の冬に渡日、怖い父と二人で暮らしました。日本語がよく分からず勉強を頑張つても成績はなかなか上がりませんでした。学校ではみんなに無視され、自分の存在意義が分からなくなりました。

堀越 15歳の少年にはつらい経験ですね。

陳 そんなときアフリカの太極拳をテレビのニュースで見て、自分でも何かできることはないかと、医師になることを決意。目標ができるかと成績は急上昇。友だちもでき、周りの見方も変わっていききました。「医者になる」と公言したら、みんなに助けてもらえることも増えて今日の自分がいる。だから「みなさんも将来の目標を持ち、友だちを大事にしよう」そんなふうに語りかけられます。

堀越 受験や友だち関係で悩む中学生には、胸に響きますね。

陳 つらい経験を乗り越えたからこそ語る事ができます。「いのちの授業」では、「自分ならどうするか」を考えてもらう、生徒

が重要ですが、知は学校で育めますが、徳と体は家庭での役割が大きい。保護者にはぜひ自覚してほしいです。

堀越 陳先生が目指すものは何ですか？

陳 私は脳腫瘍と心筋梗塞を経験していて、命について改めて考えさせられた時に、可能な限り「自分にしかできないこと」がしたいと思いました。産婦人科医として新しい生命の誕生に携わるだけでなく、生きることの尊さ・大切さを子どもにも親にも、教師にもみんなに伝える。そのために「いのちの授業」を続けていくことが私の使命・ライフワークです。

の話は「自分にしかできない」取り組みだと感じました。私も親への感謝の気持ちを伝えようと思えた取材でした。(堀越琴美)



いのちの授業 (小学生編)



クラウドファンディングで生教育動画を制作



いのちの授業 (一般・PTA編)

みんなで楽しく
地元を元気に！

中央病院が

仕掛けるまちづくり

地域活性
プロジェクト

〈東京〉
中央病院

芝地区総合支所協働推進課が主催する芝BeeBee'sプロジェクト



中央病院は、港区内の自然・人・社会をつなぎ循環させる「みんなとプロジェクト」を4月に開始。その活動第一弾として港区で採れるはちみつ「しばみつ」を使った「しばみつマドレーヌ」を開発しました。プロジェクトの目的は「行政・企業・大学などさまざまな地域団体と手を結び、地域資源を地域のみんなで楽しむ」こと。同院広報室・佐藤弘恵室長が実行委員会会長を務め、ラジオ局の文化放送、まちづくり企業のオルト都市開発研究所らメンバ

「しばみつマドレーヌ」のパッケージのロゴマークは、港区の象徴・東京タワーに住民・緑・太陽で「MINNNATO」を表現

ーや港区内の就労継続支援B型事業所、それと後援してくれる港区芝支所協働推進課と共に活動しています。

地域で事業展開するみんなの輪をつくる！

同プロジェクトの発起人は、中央病院附属乳児院（当時は中央病院企画課事務次長）の岡尾良一院長。2019年度に予定していた済生会フェア（コロナ禍で中止）の準備で、地域と連携した活動を模索したのが発端といます。

「港区のホームページで、まちづくりの一環として地域交流を図るために始まった養蜂活動の会・芝BeeBee'sプロジェクトが目にとまって。当院もこの輪に加わり区民と協同で何かしよう、地域とつながろうと、佐藤さんと話し合いました。」

早速芝支所に問い合わせ、養蜂活動に参画。主に区主催イベントで販売していた「しばみつ」の新たな活用法を芝支所も検討中でした。そこで中央病院は、一定量をコンスタントに採



「みんなとプロジェクト」発起人の岡尾さん（左）と、実行委員会会長の佐藤さん



東京の都心・港区の中央に位置する中央病院



SAISEIKAI JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。

取できる「しばみつ」を活用し

たまちづくり活動を検討。行政や港区の企業・福祉作業所・団体が輪になって住民とつながる「みんなとプロジェクト」を構想し、商品化に取り組んだのです。「広報はソーシャルインクルージョンの番組やフードバンクを行なっていた文化放送にお願いしよう、商品の包装・チラシやみんなとプロジェクトのロゴマークなどはBeeBee'sメンバーのデザイナーに作ってもらおうと進みました」（岡尾さん）。肝心の商品化は「し



「みんなとプロジェクト」メンバーの定例会議



みなとワークアクティ利用者が「しばみつマドレーヌ」を製造中



ばみつ」の瓶詰め作業担当・みなとワークアクティに依頼。「癖がなくすっきりとした甘味が特長のしばみつで日持ちするお菓子と考える中で、同所で以前から作っていたマドレーヌのレ

「しばみつマドレーヌ」は、作業所で働く障害のある人たちが作りやすい大きさのサイズ。パッケージには同プロジェクトと港区産の「しばみつ」使用をアピールする二つのロゴを印字。港区内の各種イベントや、障害

保健福祉センター・ヒューマンぶらざ、瀬戸内のアンテナショップ・ポテンセとうちで1個270円で限定販売しています。

港区のみなさん仲間になってください

課題は大量生産が難しいことと佐藤さんは話します。「港区内の複数の作業所とつながり、安定生産を目指したい。住民から「贈呈用に購入したい」との要望もあり、箱詰めの商品も検討中で、箱のデザインは区内で一級建築事務所を運営するデザイナーに依頼をしました。」

「ものを作って売る」という、医療とは大きく異なる未経験のチャレンジに苦闘中の佐藤さん。「困ったことも疑問もプロジェクトメンバーと共有し、どう解決しようか日々模索しています。いろんな人や団体とつながり仲間を増やしながら、「こんな企画はどうか」な「中央病院はこの役割を担ってほしい」などと活発に交流し、地域を活性化していきます」と話しています。

（メディカル・リリーフ 平山果奈）

いのちの授業

〈大阪〉茨木病院
病棟師長・アドバンス助産師
恵 愛

生まれてくるいのちは すべて大切 子どもも教師も参加型で学ぶ

当病院は2014年から産婦人科の助産師・看護師が、北摂地域の小・中学校や支援学校で「いのちの授業」を行なっています。生命の誕生に携わる現場から「生まれてくるすべてのいのちが大切」と伝える活動です。学校や看護協会の依頼で訪問し、コロナ禍でもリモートで年4〜5回の授業を実施しています。

教師と一緒に作り上げ 児童・生徒の思いに応える

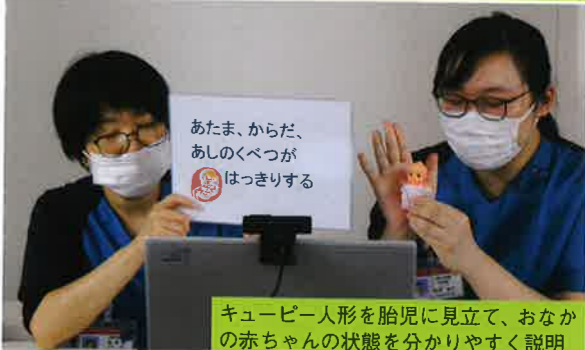
内容は妊娠・出産・育児をはじめ、思春期や多様な性のあり方に触れることもあります。私たちが一方的に話すのではなく、子どもたちにも手伝わってもらい、学校の先生と一緒に作り上げる



参加型の授業が基本です。例えば、おなかの中の赤ちゃんを人形で表現するクイズ、大きな子宮の袋に入ってもらう子宮体験のほか、先生と一緒に寸劇「出産」も行ないます。先生の演技はひときわ子どもたちの関心を引き付けます。児童・生徒の生活環境は個々に異なりますが、すべての子に共通するのは「おなかの中で大切に育てられないと、生まれてくることできないんだよ」ということ。これは必ず伝えます。コロナ禍も、学校の先生



妊娠の仕組みを手製の子宮模型で説明



キュービー人形を胎児に見立て、おなかの赤ちゃんの状態を分かりやすく説明



骨盤模型を使って回転しながら赤ちゃんが下降してくる様子を説明する助産師



「命の大切さが本当によく分かりました」と、児童から届いた手紙

の協力と必要物品の事前貸し出しで、リモートながら参加型授

業を継続。妊娠後期の体重増加量8キロ分の本を入れたランドセルを体の前で肩にかける妊婦体験や、教室全体を暗くしてみんなで子宮の中の赤ちゃんの気持ちになって考えるなど。妊婦体験では、大きくなったおなかで足下が見えない、足の爪を切りづらい、体が重い、寝るのも大変と知ります。

開催前には、クラスの特徴や先生の思いをメールやWeb会議でヒアリング。自己肯定感の低い子が多い、相手の気持ちを考えず発言する子がいる、親がシングルのお家庭が多いなどの実態に合わせ、授業内容を先生と



「いのちの授業」を担当する産婦人科スタッフ

一緒に組み立てます。児童・生徒の近くで寄り添う先生が代弁してくれる、子どもたちの思いを大切にするためです。

生まれてきてくれて ありがとう



着替えやおむつ交換で育児を体験



子宮をイメージした大きな袋に入れて、胎児の気持ちを疑似体験

大切にしたいと話しました。授業の後はお礼の手紙が届きます。「おなかの中で死んでしまっただけ、頑張っていたのを今回の学習で知った。よくやったねと思った」。こうした手紙を読むたび私たちは涙が出ます。ほかに「赤ちゃんはものすごく小さいけど、そのいのちはものすごく大きいんだと思っただけ、妹や弟を大切にします」「お母さんはおなかを痛くして産んでくれたんだと思うとうれしい」と、私たちの思いを受け取ってくれているのがわかります。

「亡くなるいのち」ではなく「生まれてくるいのち」について話そうと、筆者らが始めた「いのちの授業」。一番伝えたいのは「生まれてきてくれてありがとう」ということ。自分や自分以外のいのちも大切であること、赤ちゃんを産み育てることについて考えるきっかけにもなればと思っています。そしていつか、茨木病院に子どもを産みに来てくれたらうれしいです。



小学生に「いのちは、頭や胸や心臓だけでなく体全部でみんなが持っている時間。大切にしたい」と語る助産師

臨床検査技師 のしごと

〈茨城〉
龍ヶ崎済生会病院
医療技術部臨床検査科
科長
井出義子

日常の検査・健診、 コロナ最前線でも活躍 さらなる業務拡大も進行中



龍ヶ崎済生会病院には、検体検査室・生理機能検査室・内視鏡検査室と併設の健診センターに総勢24人の臨床検査技師がいます。緊急検査にも対応できるように、24時間365日の日当直体制で働いています。

検体検査室は院内と健診センターから提出された検体を用い、生化学検査・免疫学的検査・血液検査・一般検査・輸血検査・細菌検査を実施。生理機能検査室では外来採血および心電図検査・超音波検査・肺機能検査・脳神経検査のほか、鼻咽喉からの検体採取も行ないます。内視鏡検査室では、医師や看護師と同じ現場で内視鏡検査を介助、健診センターでは採血・心電図・超音波検査・肺機能検査・内視鏡検査に携わっています。

2015年の法改正で、診療

の補助として臨床検査技師による検体採取業務が可能になり、当科は早期に全員が指定研修を修了、検体採取業務を担当しています。コロナ禍では、COVID-19検査開始直後から看護師と分担して検体採取業務を行ない、



PCR検査実技研修を受講する筆者（2021年12月）

看護師の業務負担を軽減。さらに筆者はCOVID-19ワクチン接種研修も修了しました。

あいさつと自己紹介

医療技術部の基本理念の一つに「あいさつ」があり、臨床検査科では外来採血で患者さんに氏名を聞く前に、必ず「臨床検査技師の井出義子です」と名乗り検査を円滑に進めています。

日常業務でも「この患者さんが自分の家族だったら」という気持ちで常に丁寧に接します。採血後に患者さんから「全然痛くなかった」と褒めていただいたときや、検体検査で発見した

異常を医師へ報告し、次の治療につながったときには、特にやりがいを感じる瞬間です。

筆者は「説明ができる検査技師」を目指し臨床検査技師会の講習も受講。患者さんから検査



「説明ができる検査技師」を目指し受講した「検査説明ができる検査技師」講習会（2016年9月）

の問い合わせがあった場合、医師の許可を得て臨床検査科で詳しく説明しています。

院外活動や新業務へも挑戦

臨床検査技師の役割を認識してもらうため院外活動もしています。茨城県臨床検査技師会理事だった筆者は、県民向け公開講座や「検査と健康展」を毎年担当。体組成・骨密度の測定や疑似乳房触診体験などを通じ、健康意識を高めながら仕事を知ってもらいます。

コロナ禍では、龍ヶ崎市内の養護教諭を対象に「COVID-19抗原検査の実施方法手引き」を作成。市役所で、抗原検査キットの操作方法や注意点を直接約15人にレクチャーしました。

臨床検査科の目下の目標は、業務の幅を広げること。「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」に積極参加中で、21年10月から新たに認められた気管カニューレ内部からの喀痰吸引採取など8業務

を担えるよう、年度内の全員修了を目指しています。

院内外のこうした活動が評価され、筆者は令和3年度茨城県表彰「新しいいばらきづくり表彰（個人）」を受賞しました。これを励みに臨床検査科長とし

て、患者さんによりよい医療を提供していきます。そのためにも、まずは職員が働きやすく学びやすい環境をさらに整え、学会・研修会の参加推奨や参加費の一部補助を行ない、職域拡大・スキル向上につなげます。



「検査と健康展」(2018年2月)にて ①疑似乳房触診体験を実施 ②検査結果の見方を臨床検査技師が市民に説明 ③体組成測定で、「実年齢と結果にこんな差が」と驚く参加者 ④市民向けヨガ教室に臨床検査技師も参加

ふくまる 相談室

山口市中央地域
包括支援センター
介護支援専門員
(ふくまる相談室担当)
岡村僚太

ひきこもりも介護も育見も生活困窮も 福祉の悩みなんでもどろろぞ

済生会山口地域ケアセンターが山口市から受託する山口市中央地域包括支援センターは今年1月、「やまぐちま

の福祉相談室」を併設しました。福祉に関するあらゆる悩みを丸ごと受け止める相談窓口なので、通称は「ふくまる相談室」です。

縦割りではなく、市全体で福祉の問題に対応するため、山口市が市内4カ所の地域包括支援センターに設置したものです。

当室の担当エリア（大殿・白

石・湯田地域）では、住民の抱える問題が多様化・複雑化していますが、相談者の属性・世代・分野を問わず、幅広い悩み事を一手に受け付けます。「どこに相談したらいいかわからない」という相談者を適切な支援機関につなぐ役割も担っていて、4月からの半年間で約30件の相談



なでしこファーム

**焼き菓子のネット通販店
なでしこファーム**

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で
作ったお菓子を販売するネット通販店。
クッキーやケーキは、障害者が一生懸命つくりました。

済生会のトップページからアクセス!!

<https://www.saiseikai.or.jp>



山口県立大学でふくまる相談室の活動を報告

当相談室にはそれを乗り越えていける強みがあります。山口地域ケアセンターの各施設で、患者・高齢者・障がい者・児童・生活困窮者など多くの対象を支えるソーシャルワーカーや相談員の横のつながりです。これを最大限活用し、市民のみなさんの期待に応えていきたいです。

ここまでの相談・支援を通じて、福祉の相談を丸ごと受け止め対応するふくまる相談室だからこそ、できる支援があると感じて

います。地域の課題は住民や関係機関と一緒に協議し、誰もが住みやすいまちづくりを、ふくまる相談室から発信できるよう取り組んでいきます。



民生委員の月例会に参加。ふくまる相談室の状況や事例を紹介



山口市中央地域包括支援センター・ふくまる相談室のスタッフ



「地域の人の知り、人と人をつなげて新しい社会資源を生み出すきっかけづくりもしたい」と筆者

「ひきこもりの家族の将来が心配」「介護と子育ての両立が難しく仕事に就けない」など、ふくまる相談室には多分野にまたがる切迫した相談が寄せられます。こうした相談は課題と当事者の思いが絡み合っているケースが少なくなく、傾聴して課題整理しながら、どの支援窓口へつなげばいいのかを探ります。

例えば、ひきこもり相談では、専門相談窓口で居場所づくりも担うひきこもりステーション事業につなぎ、必要に応じて本人・家族と一緒に現地に足を運びま



ふくまる相談室を併設する中央地域包括支援センター



ふくまる相談員の定期会議。各相談室の相談状況などを共有し事例を検討

す。コロナ禍で生活が苦しい人には、生活保護やハローワークを紹介し手続きにも同行します。介護と子育ての両立が難しい人やヤングケアラーなど、当相談室単独での解決が難しい場合は、後方支援してくれる山口市役所のふくまる相談員と連携し包括的に支援します。

複合施設の強み生かす

ふくまる相談室を地域に周知するため、民生委員・児童委員・福祉員・専門相談機関の会議に参加。高校・大学でも未来を担う若者に向けて講義を重ねてきました。私たちの役割・機能・活動のほか、相談事例も紹介し

地域の課題を知ってもらうよう話しています。この効果もありどこに相談したらよいか分からない時は、「とりあえず、ふくまる相談室に相談しよう」と連絡いただくことが増えていきます。

2年目に向けて相談がさらに増え、山口市の地域課題や足りない社会資源がいっそう見えてくるかもしれません。しかし、

福祉に関するお困りごとまるごとお受けします。

ふくまる相談室

相談は無料です。さまざまな関係機関と連携して、一緒に考え、解決に向けてお手伝いをします。ご家族や、まわりの方々からのご相談も受け付けています。

ひかりで悩まない

相談支援の流れ

- 1 まずはお相談ください
- 2 お困りごとの整理
- 3 問題解決の方法を一緒に考えます
- 4 関係機関と一緒にご支援します

ふくまる相談室 相談無料

受付時間
月曜日～金曜日(土・日・祝日及び年末年始は除く)
8時30分から17時まで

開設場所

中央地域包括支援センター併設 TEL:083-934-3338 【開設地域】大朝・石見	川原地域包括支援センター併設 TEL:083-986-2077 【開設地域】大朝・石見・津和野・津和野二丁目
基幹型地域包括支援センター併設 TEL:0835-52-0670 【開設地域】津和野	基幹型地域包括支援センター併設 TEL:083-956-0995 【開設地域】阿蘇

専門の窓口や関係支援機関が分かっている方は、今までもどおり直接ご来訪ください。

ふくまる相談室の告知ポスター

広島病院が済生会フェア



初めてショッピングセンターと共催

院1階フロアで老健はまな荘・特養たかね荘が介護体験などを行いました。病院屋外駐車場では、広島県坂町及び熊野町のマスコットキャラクターも登場。救急車両の展示コーナーでは親子連れが記念写真を撮っていました。

フジグラン安芸では、「骨粗鬆症」「ロコモ・フレイル予防」「がん検診」の講演を実施。参加者は熱心に聞いていました。

午後は、広島病院で特別講演を実施。済生会の炭谷茂理事長が、「誰一人取り残さない社会を作るために」と題し、済生会が外国人や障害者、刑務所出所者など生活困窮者と一緒に地域社会を築いていく「ソーシャルインクルージョン」の考え方を紹介しました。続いて、認知症の母の介護をする父の日常を描いた映画「ほげますから、よろしくお願いします。」の監督を務めたドキュメンタリー映画監督・信友直子さんによる特別講演。「認知症が私たちに親子にくれたもの」をテーマに自らの体験を踏まえて、「家族の笑顔が認知症の人を安心させる。家族だけで介護しようとせず、公的サービスの活用やご近所と介護をシェアしましょう」と満員の聴講者に向けて語りました。

最後はフジグラン安芸の特設ステージで坂中学校吹奏楽部の約40人が大迫力の演奏を披露し幕を閉じました。

(広島病院 済生会記者 細川佳緒理)

隅井浩治・老健はまな荘施設長
菊間秀樹支部長
渡辺光章実行委員長(循環器内科部長)
炭谷理事長
松本院長

済生会の活動への理解を深める済生会フェアが11月6日、広島病院と隣接のショッピングセンターのフジグラン安芸で開かれ、約1000人が来場しました。当院は「よろず相談会」と題して健康相談会を同ショッピングセンターで毎月実施していますが、今年初めて共催で済生会フェアを実施しました。

午前10時20分、広島病院多目的ホールで、松本公治院長が開会挨拶、矢野中学校吹奏楽部のメンバー約20人による演奏会で華やかにスタートしました。健康管理センターの骨密度測定や血管年齢測定は順番待ちの行列がで、病

地元中学生吹奏楽部の演奏も

「インクルーシブ社会を目指して」
 小池東京都知事が記念講演

済生会主催の
 シンポジウム



ソーシャルインクルージョンとSDGsのまちづくりを考える済生会主催のシンポジウム「インクルーシブ社会を目指して」が11月16日に、(東京)港区芝公園のザ・プリンスパークタワー東京で開かれ、福祉関係者ら約210人が参加。小池百合子・東京都知事が記念講演を行いました。

東京都は、障害者など就労が困難な人たちに働く場所を提供するソーシャルファームの設立・運営を支援する、全国初の条例を2019年度に制定。その政策をけん引した小池都知事は



表明の中で包摂社会の実現とつながっていると報告しました。

先駆的な「まちづくり」事例を共有

パネルディスカッションでは松原了本部長がコーディネーターを務め、パネリスト4氏がそれぞれの活動を紹介しました。



社会福祉法人パステルの石橋須見江理事長は、栃木県を中心に知的障害者と地元の桑の葉を練りこんだケーキ等の開発。日本労働者協同組合連合会の田嶋康



利専務理事は、働く人が出資し経営に携わる形態を紹介しまし

「障害者などに就労の場を提供するだけでなく、その組織が自立した経済活動を続けていくというのが重要。誰一人取り残されない社会を目指し、持続可能な回復、サステナブル・リカバリーを東京で実現していくのが、私の務めです」と訴えました。

炭谷茂理事長は基調報告で、本会はソーシャルインクルージョンの活動をSDGsと連動させて進めている。その活動は国も評価し、岸田文雄首相も所信

北海道済生会の榎引久常務理事は、小樽市の商業施設でスタートした発達障害児支援事業への申し込みが殺到、潜在的なニーズは多く、積極的に対応していきたいと報告。東京都済生会中央病院の佐藤弘恵広報室長は、同院が港区内のはちみつを使って障害者施設でマドレーヌを製造、それを販売する地域づくりプロジェクトに参画して新



たな病院のかたちを目指していることを説明しました。

コロナ感染者への偏見や差別児童虐待、子どもの貧困、8050問題などの社会的な課題が顕在化する背景には著しい孤立や排除が根付いています。済生会や各団体の取り組みを通じて、インクルーシブ社会の実現を考える機会となりました。

(済生会本部 総合戦略課)



済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定しました。
無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
だれも排除されないまちづくりを目指し、
全支部・施設が1696事業を展開します。

生活困窮者への予防接種と

更生保護施設での健診



福岡総合病院

福岡総合病院は10月に、なでしこプランの二つの活動を実施しました。
10月20日は当院に隣接する天神中央公園でホームレスと、福岡市一時生活支援施設入所者22人にインフルエンザ予防接種を行いました。接種後には「これから迎える寒い冬をどうぞ無事にお過ごしください」と

声をかけ、おにぎりとお茶、除菌シートに靴下をお渡ししました。この模様はテレビ・新聞4社で地域のニュースとして報道されました。
同22日には医師・看護師・MSW・事務職員のチームで更生保護施設を訪問。11人の入寮者に健康診断・健康相談を実施しました。ここは刑務所出所後、頼る人がいない、自立更生が

難しいなどの事情を抱える人が、安心して地域生活へ戻るよう一定期間保護するところ。健康管理に気を配る余裕のない人もいるため、少しでも健康を意識していただきたいとの思いで続けている取り組みです。
(済生記者 電永朋実)

静岡済生会総合病院

外国人のための無料健康相談・検診会。10カ国35人が来場

静岡済生会総合病院は10月16日、外国人のための無料健康相談と検診会を実施しました。

当院はソーシャルインクルージョンの一環で、言葉が通じない、健康保険がないなど、さまざまな理由により医療サービスを受けることができない外国人とその家族に、1998年から無料で検診や健康相談の機会を提供。25回目の今年は、当院スタッフのほか、市役



所・近隣医療機関・学生・通訳ボランティアなどを含む計80人が運営に参加しました。
開会に際して、岡本好史病院長は「日本で不安な気持ちで過ごす外国人のみなさんの心と体のケアが少しでもできれば」と述べました。

この日はブラジル・フィリピン・インドネシア・ウクライナなど10カ国の35人が受診。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり12人とどまった昨年に比べて3倍の人が利用しました。
(済生記者 酒井あい)

ユニクロ今治店で無料健康相談 3時間半で60人が来場

〈愛媛〉今治病院

今治病院・今治第二病院・老健希望の園が連携して10月28日に、ユニクロ今治店で無料健康相談会を初めて実施しました。前号で紹介した「衣類バンク」に続き、今治医療・福祉センターと同店が協働して行なう社会貢献活動の一環です。

取って眺める流れをつくることができました。ユニクロのスタッフとも交流を深めることができました。今後も、業種の垣根を越えた地域貢献活動を進めていきます。
(庶務課 井手紀之)

3施設の職員12人は、済生会のソーシャルインクルージョン推進計画の補助金で購入したテントやテーブルを持参し、同店の出入り口脇にブースを設置。3時間半で60人が訪れ、骨密度・貧血・動脈硬化・血圧の各検査と、医療介護相談を行いました。
ブースの脇には「前あきインナー」などユニクロの商品が陳列され、健康相談を終えた人が手に



「どんな人でも入居を断らない」 住宅支援法人の理念・姿勢に共感

熊本県地域生活定着支援センター



熊本県地域生活定着支援センターは11月7日、コロナ禍で休止していた関係機関との連絡協議会を3年ぶりに開催しました。まつお不動産の松尾実さんが「居住支援法人」を解説しました。住宅セーフティネット法に基づき都道府県が指定し、住宅確保要配慮者（低所得者・被災者・高齢者・障害者など）の住居支援を担う法人で、まつお不動産も指定を受けています。「どんな人であつても入居を断らない」という理念で奔走する松尾さんには、

「断らない相談支援」を目標に掲げる当センターと相通するものを感じました。

松尾さんは「自身が何か一つ見逃すことで、目の前にいる人の人生を左右してしまうかもしれないという緊張感をもって居住支援にあたっている」と力説。その話は、私たちの日々の支援業務を振り返るよいきっかけにもなりました。



この協議会は医療圏を5ブロックに分け、在宅支援者などの多職種や関係機関で地域課題の把握と解決策を見出す話し合いを通じ、住みやすいまちづくりを目指すもので

当院は10月26日、令和4年度第1回5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会を開催。「ACPを活用した地域連携を考える」おひとり様編」をテーマに119人が参加しました。

この協議会は医療圏を5ブロックに分け、在宅支援者などの多職種や関係機関で地域課題の把握と解決策を見出す話し合い

〔福岡〕飯塚嘉穂病院

ACP活用し独居の人の支援を地域で

開催に先立ち、「身寄りがない人の支援の難しさはどこにあるのか」「意思決定支援としてACPを活用しているか」などの事前アンケートを実施。立場の違いで感じていることが異なることや、ACPの必要性は理解していても実施できていないことなどが見えてきました。

それらを共有した上で協議会では、在宅医療に尽力する加来医院（鞍手郡小竹町）の加来庸一郎氏をアドバイザーに事例を検討。加来氏はACPを活用し患者に寄り添い続ける医療について助言しました。

地域の多職種がワンチームとなり、本人の意思決定を主軸に寄り添う医療と介護・福祉を実現する——この重要性を再確認する機会となりました。
（地域医療連携室課長 濱崎妃沙子）

「ひとりじゃないよ。まずは相談を」 稲見課長がラジオで呼びかけ

なく、まずは相談してみてください。さい、話をしてみてください。

稲見一美地域連携課長（MSW）と菊地悠一郎係長が10月25日、宇都宮コミュニティFMミヤラジに出演し、市つながりサ

サポート女性支援事業をPR。つながりサポ事業の内容・ビジョン・取り組み、生理の貧困に関する事例などについて説明。出

〔栃木〕宇都宮病院

女性応援イベントで つなサポをPR

栃木リビング新聞社が宇都宮市内で10月28日に開催した「リビングSDGsプロジェクトスマイリーフェスタ」で、当院地



張相談会の予定を含むイベント情報も告知しました。稲見課長は「困っている人に、ひとりじゃないよと伝えたい。一人で耐えて我慢しようでは

11月は2カ所出張相談会 つなサポ連携団体との協働も

宇都宮病院は、つなサポ事業の一環で女性のための無料相談会（兼）生理用品配布会を、11月1日に平石地区市民センターで、6日にも宇都宮市内の道の駅ろ

まんちつく村で開催しました。6日は、ひとり親家庭と子どもたちを見守るアウトリーチ型支援事業を行なうNPO法人ぱんだのしっぽの声掛けに込めたもの。同法人はつなサポ連携団体の一つで、児童虐待防止推進月間（11月）と、女性に対する暴力をなくす運動（11月12〜25日）の啓発イベントを企画して「共に行動しましょう」と誘われました。



が来場。育児・子どもの将来に関する不安や、物価高騰が進む中での経済的不安を訴える人が目立ちました。稲見一美地域連携課長（MSW）は「個々の事情に寄り添った支援につながるため、今後も民間団体などと連携しながら、女性支援の取り組みを進めていきたい」と述べています。



この日は150人余りの女性の音楽会が行なわれました。稲見課長は「ひとりじゃないよ」あなたに合わせた支援のカタチ」と題したセミナーで登壇。宇都宮市からつなサポ事業を受託した背景や常設窓口に寄せられる悩みなど、現場の実情と支援を解説。臨時の出張相談

会では生理用品の提供をきっかけに相談支援の輪につなげる取り組みを紹介。「困っていることがあれば、気軽に相談してほしい。周りに困っている人がいれば、ぜひつなサポ相談室を紹介してください」と呼びかけました。（地域連携課 秋山綾香）

3年ぶりに参加者を集めて開催

香川で済生会フェア

なかやまきんに君も

香川県
済生会病院

健康イベントを通して済生会の活動への理解を深めてもらう。香川県済生会病院の「済生会フェア」が11月13日、3年ぶりに開かれ、地域住民ら約1500人が来場しました。

イベントは午前10時にスタート。病院内は事前申込をした500人が腹腔鏡手術や胃カメラなどの操作体験を実施。子どもたちが医師のサポートを受けながら手術室で腹腔鏡手術や縫合などを行いました。他にも薬剤師と一緒に正しい手洗いや、看護師から正しい手洗いの方法を学んでいました。

病院内は事前申込をした500人が腹腔鏡手術や胃カメラなどの操作体験を実施。子どもたちが医師のサポートを受けながら手術室で腹腔鏡手術や縫合などを行いました。他にも薬剤師と一緒に正しい手洗いや、看護師から正しい手洗いの方法を学んでいました。

会場は大盛り上がり。なかやまきんに君は「筋肉を鍛えることは健康にも良い。みんなを鍛えましょう。パワー！」と持ち前のネタで叫び2人でポーズを決めていました。

最後に若林久男院長が「当院は地域の医療を守る努力をしてきた。これからも地域の一員として皆様との命と健康を医療で支えていく」と挨拶しました。昨年、一昨年とコロナで開催を見送っていた済生会フェア。今年こそは対面で開催しようとして実行委員会が協議を重ね、9月中旬に開催を決定。コロナ禍での開催を心配する声もありましたが、職員それぞれが知恵を出し合い、コロナ対策を徹底して開催。雨の中多くの方が来場し、楽しそうな姿に、私たちもたくさんのパワーをいただきました。

(香川県済生会病院
済生記者 西山沙里)



病院職員と参加者を出迎えた若林院長（左から2人目）



実行委員長の河野知樹消化器内科部長（右）と筆者



なかやまきんに君と整形外科の藤木敬晃医師





報告 生活困窮者問題シンポジウム 地域を強く、元気にする「きたかみ型 地域包括ケアビジョン」を考える

〈岩手〉北上済生会病院 済生記者 掛川千恵子

第10回生活困窮者問題シンポジウムが11月12日、「いわて発・生活困窮者問題を考える」「きたかみ型地域包括ケアビジョン」と地域共生社会をテーマに北上市の日本現代詩歌文学館で開催、オンラインも含めて、



炭谷茂氏

行政や病院、福祉関係者ら約150人が参加しました。はじめに、一戸貞文・北上済生会病院院長と炭谷茂理事長が挨拶、岩手県済生会の伊藤彬支部長が「地域が元気であるために」と題して基調講演。「助け合いの精神である結（ゆい）の心を中心にして、人の縁を大



一戸貞文氏

切にする精神を育てれば地域は強くなる」と語りかけました。シンポジウムでは、当院副院長で北上市在宅医療介護支援センター長の柴内一夫氏がコーディネーターを務め、地域課題に取り組んでいる4人のシンポジストが登壇しました。「北上済生会病院の無料低額診療事業」の実態調査について、北上市在宅医療介護連携支援センター医療ソーシャルワーカーの菊池涼子氏が報告。実態調査から見えてきた課題として、医療と介護の連携にとどまらず、地域共生型の包括的な総合支援拠点に向かう必要があると訴えました。暮らしの自立支援センターは、たかみの菊池里枝センター長は、センターの取り組みを紹介し、



今後の活動について「支え合い誰もが安心して健やかに暮らせる地域社会を目指したい」と述べました。



伊藤彬氏

NPO法人わらすば理事長の大内玲子氏は、居場所づくりや学習支援など子どもと一人親家庭の支援を行なう「わらすば」の運営を通じて、「子どもの貧困の連鎖の解消を目指す」「困っている人を一人でも多く笑顔に」「母親の家事軽減」「高齢者世代のより所」という支援の「カタチ」を報告しました。



大内玲子氏

地域包括支援センターわつこ管理者の老林聖幸氏は、北上市における地域包括支援センターの取り組みを説明。自立支援型ケアマネジメントの向上とネットワーク構築のため、連携・協働を促進する場「ケアラボ@きたかみ」を立上げ、チームきたかみのマインド醸成と職能ごとの垣根を超えたアプローチ方法

を願います」と挨拶しました。閉会後の参加者へのアンケートでは「町が元気となるよう、できることは何かを考えていきたい」「心の拠り所となる居場所」の大切さを再認識した」という感想がありました。

もじゃもじゃ頭にアロハとビーサン。
映画『海岸通りのネコミミ探偵』で演じた
猿渡浩介の髪形をご自身でメイクし
「湘南の自由人」を印象的に演じた和田正人さん。
「陸上選手から俳優へ」という
ユニークな転身から18年。
プライベートでは今年10月に待望の第二子も誕生、
奥さまとの二人三脚で楽しく子育て真っ最中。
公私ともに充実して、演技にも
ますます磨きがかかります。

和田正人

Masato Wada



Text: 栗原潤子
Photos: 安友康博
Hair & Make-up: 五十嵐千聖
Styling: 奥村渉



Vol. 151



わだ・まさと 1979年生まれ、高知県出身。高校卒業後日本大学へ進学、陸上競技部4年次(2002年)には箱根駅伝主将。卒業後NEC陸上部に入るが翌年の廃部を機に俳優の道へ。2005年俳優デビュー。NHK連続テレビ小説「ごちそうさん」で注目を集め、TBS日曜劇場「陸王」をはじめ多数作品に出演。その他公開待機作として、映画『THE LEGEND & BUTTERFLY』(2023年1月27日公開)、映画『オレンジ・ランプ』(2023年公開)、舞台『歌うシャイロック』(2023年2月9日~公演)が控える。

「あの時も第一人者の方が監督についてくださいました。駆け出しで右も左も分からない頃でしたが思い入れのある作品です。いろいろな職業に触れられるのも役者の醍醐味。これからも素敵な役との出会い、人との出会いを楽しみながら、毎日がオーディションのつもりで頑張っていきたいと思います」

※『死化粧師〜エンバマー間宮心十郎〜』(テレビ東京)

役との出会い、人との出会いを大切に 一歩ずつ前へ

「ペット探偵を演じると聞いて素直に『面白いな』と思いました。まだ世の中にあまり知られていない職業だけに、自由がきくなど、実際にその道の第一人者の方に、ペット探偵がどんなことをするのかいろいろ聞いてたうえで役作りをしていきまし

た。事前にしっかり準備ができたので、撮影現場では自由に楽しく過ごさせてもらったという印象です」
ペット探偵の2人が暮らすのは職住一体の素敵な建物。「大人の遊び場と言うか隠れ家のような感じ。古い車とかおも

ちゃとか、趣味のものがたくさん置いてあって。実際に使われている、ほぼそのままです。場所のイメージに近づけて衣装も選んでいきました。猿渡の自由な雰囲気はロケーションにもずいぶん助けられていると思います」
ラスト近くには元陸上選手ならではの競歩シーンが。「本当は『ジョギングする2人』だったのですが『あえて競歩っ



【海岸通りのネコミミ探偵】
日本初と言えるペット探偵映画。江ノ島・湘南を舞台に、人生何もかもうまくいかない青年・猫塚照(牧島輝)が、ひよんなことからペット探偵・猿渡浩介(和田正人)の見習いとなり、心に傷を持つ少年(菊池爽)との交流を通して新たな人生を見つけ出していく。その他、星野真里、尾関伸次、徳井優などの実力派俳優も出演。男同士の軽妙な会話と友情、猫のパーコン、ぼんずの演技も見逃せない。
■監督: 進藤丈広 ■脚本: 金杉弘子
■出演: 牧島輝、和田正人、菊池爽、尾関伸次、徳井優、パーコン(猫)、ぼんず(猫) / 星野真里
2022年12月2日(金)よりシネマート新宿ほか全国順次ロードショー

©2022『海岸通りのネコミミ探偵』製作委員会

口福につぼん

吉井省一

たのはその名もずばり「ジャズとようかん」。本店は大分の由布市にあります。今年3月には京都にミチカケというお店も出していて、アート展やライブ、ワークショップなどを開催しています。

また、「ジャズとようかん」では、旅する音楽と名付けた、

に仕上げた「ジャズ羊羹」。九州の人気リゾート地・湯布院生まれの逸品です。

ピアノの鍵盤を模した洋風テイストの羊羹

このユニークな羊羹を創案し



く堪能してもらうために、日常を忘れる旅先で音楽を楽しんでもらいたいというオリジナルな企画です。今回ご紹介する「ジ



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

63 ジャズ羊羹 classic

《ジャズとようかん》
大分県
由布市

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

「ジャズ羊羹」の命名の由来は、店主の谷川さんが大好きだった作家の故・向田邦子さんの著書の中に、水羊羹に合わせてジャズのレコードを選ぶシーンが印象に残っていたからとか。

こうした想いを託された羊羹は、熟練の和菓子職人さんの手でとことんこだわって作られています。手作業で一つひとつ丁寧に仕上げているため、大量生産ができないほどです。



湯の坪街道沿いにある本店は、明るくモダンな雰囲気。菓子販売のほかセレクトショップを併設

ジャズ好きのお客さんたちは、眼を閉じて軽く体を揺すりながら自分の世界へ没頭し、中にはコーヒー一杯で閉店から閉店までねばったツワモノもいたとか。冬將軍の訪れとともに、家で過ごすことが増えてくるこの時期、ムーディーなジャズなど聴きながら、優雅な気分味わいたい一品をご紹介します。



いちじくの風味が ワインとも好相性

高級感あふれる箱を開けると、そこにはピアノの鍵盤をデザインした、存在感たつぷりの羊羹が一棹。「洋服を着た和菓子」のキャッチフレーズ通りのお洒落な佇まい。冷やして召し上がると一層美味という同封のしおりにある通り、冷蔵庫で冷やしてからいただきます。

きれいにカットしてお気に入りの皿に盛り付けてみると、うーん、これがなかなか雰囲気が出ていいのです。お店で出されたみたい。すぐにナイフを入れるのが惜しくなります。まずは、インスタ映えるビジュアルをパチリ。

それでは、さっそく味の鑑賞へとまいります。国産小豆と沖縄県産黒糖をふんだんに使っているの、しっとり滑らかな舌触り。黒糖の豊かな香りとしつこくな

い自然な甘さがやさしく口中に広がります。

羊羹の中には、ワインに一日夜漬けたんだドライいちじくがゴロゴロ入っています。これがこの羊羹のポイント。いちじくならではの風味とプチプチした粒感が絶妙なバランスなのです。ここで、珈琲を一杯、そう、ここはあえてコーヒーでなく珈琲と書かせてほしい。私の好みを書いていただければ、香ばしくて苦みのある深煎りの珈琲あたりがおすすすめ。

でも、実はこの「ジャズ羊羹」は、珈琲や紅茶だけでなく、ワインやウイスキー、ブランデーなどとも合うと評判を呼んでいる一品。これはお酒に漬けたいちじくとの相性からくるものかもしれません。

見た目も味も大人仕立ての羊羹ですが、BGMはアダルトなジャズに限らず、お好みの音楽を流しながらあなたのだけの極上のひとときを。

ジャズ羊羹 classic
2,592円(税込・送料別) 賞味期限……発送日から常温14日間
お取り寄せ・お問い合わせは
ジャズとようかん(ナイトアンドデイ株式会社)
〒879-5102 大分県由布市湯布院町川上3015-4
TEL: 050-3538-0943
受付時間: 9:00 ~ 21:00(元日除く)
ホームページ: <https://www.jazz-youkan.com>



飾って開運! 紅白椿のお正月リース



おしべ

- 1/12に切った折り紙に切り込みを入れる
 - くるくる巻いてのりで止める
- 山折り
--- 谷折り
↻ 裏返す

花びら

- 1/16に切った折り紙の左右の辺を中心線に合わせて折る
- 上下の角を折る
- 裏返す

ツバキ

- 花びらを3つのりで貼り合わせる
- 花びらを2つのりで貼り合わせ下の角を山折り

- おしべを裏側に貼る
- ①と③をのりで貼り合わせる

葉

- 1/9に切った折り紙を半分に折る
- 半分に折って折り目を付けたら開く
- 角を山折り

リース

- 1/4に切った折り紙を半分に折る
- 半分に折る
- 上の1枚を開くように折る
- 左を内側の中心まで折る
- 同じものを8個作る
- これを組み合わせ裏側をテープで止める

リース・飾り

- 1/2に切った折り紙を半分に折る
- 下の辺を中心線に合わせて折る
- 上の角を開くように折る
- もう一度折って折り目を付ける

- リースにテープで止めてしめ縄リースの完成

完成



ツバキをリースに貼って完成。水引きやシールで飾るのもすてきです。

小さいツバキのサイズ

- 花 おしべ 葉
- 1/36
1/27
1/16



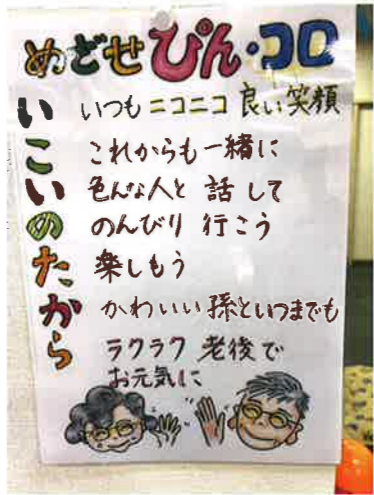
【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「春夏秋冬で楽しむ おりがみ壁飾り」など37冊。2011年から、小学校2年の教科書「こくご」(三省堂版)にも登場。「季節のイベント折り紙」(日東書院)など多数。



動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ
おりがみ協力: 株式会社トーヨー





動などを行ない、地域にもこの標語を広めていきます。

(地域交流委員 吉岡弘子)

笑顔の写真の大きな名札でマスク生活の課題を解決!

福井県済生会病院

当院は11月8〜17日までの10日間、「コロナ禍での職員コミュニケーションプロジェクト」



静岡済生会看護専門学校



〈新潟〉なでしこ青空保育園



〈神奈川〉わかさ保育園



〈静岡〉特養小鹿苑



福井県済生会病院

コロナ禍で気持ちも沈みがちになる中、今秋は各地の済生会で様々なイベントが開催されました。この写真の記事を探してみてください。

topics

研修医・指導医が日本内科学会でダブル受賞

〈埼玉〉加須病院

岡本医師は、一般的に起坐位で楽になるとされる心不全の症状について、逆に低酸素になる



右から長原光病院長、岡本医師、藤田医師

9月24日に開催された第680回日本内科学会関東地方会、当院の研修医1年次・岡本祥果医師が奨励賞を、指導医の循環器内科・藤田元博医師も指導医賞を受賞しました。ともに当院では初の受賞者です。

まれな症例を報告。脳神経内科からの紹介患者さんを、循環器内科の視点で臨床研究し発表しました。「学会発表は初めてで、今回の受賞にはとても驚いています。藤田先生をはじめ、周りの先生方に助けていただいた結果です」と喜んでいきます。

藤田医師は「この経験を通して、研修医が学会発表に興味をもってほしい。頑張ってもらいたい」とコメントしました。

(経営企画課 蓬田絵里子)

みなさんがいいのだからサロンの活動で健康づくり

〈岡山〉特養憩いの丘

特養憩いの丘では毎月、住民主催のサロン活動に協力しています。機能訓練指導員がストレッチや運動を指導したり、誰でもいつまでも参加でき楽しむことがメインのニュースポーツ(シャッフルゴルフ・ボッチャ・ベタンクなど)の道具を貸し出ししたりして関わっています。

「普段使わない箇所を動かすこと、それを継続することの大切さを学ぶよい機会」と参加者さんから聞くたびに、地域に貢献できている手応えと、地域を支援する大事さを感じます。

憩いの丘デイサービスは「ここに通って毎日ピンピン元気に過ご

しコロナとお迎えが来てほしい。地域のみなさん、利用者さんは宝物」の願いを込めた標語「目指せピン・コロ! いいのたから!」を掲げています。

みなさんと共に、これからも健康寿命延伸に大切なストレッチや運動などを行ない、地域にもこの標語を広めていきます。

(地域交流委員 吉岡弘子)



海を越えた意見交換も外国人介護職交流会

〈山形〉特養ながまち荘

ここで大きな笑顔の写真入りの名札をつくり、現状を変えようというアイデアです。プロジェクトメンバーの平澤祐子主任看護師は「顔写真をつけて接することで、互いに安心感を持ち、よりよいコミュニケーションにつながった」と手応えを述べました。

(済生記者 吉川千恵)

10月30日に外国人介護職交流会をオンライン開催しました。

2015年から続くこの会は

昨年度、オンライン開催に切り替えたのを機に「山形県内」の参加者を外し、海を越えてインドネシア・フィリピンともつな

がり活発に意見交換しています。政府の水際対策の緩和以降、山形県内の外国人介護人材は増え続けている一方で、日本語の

学びの場をはじめとした地域生活の課題は山積しています。加えて昨今の円安・物価高の関連

で、「母国への送金額の目減りと生活への悪影響」「就労・生活の場としての日本は、東南ア



ジア諸国にどう映っているのか」「選ばれる国になるために求められる支援とは」など、議論は多方面に広がりました。

午後は、恒例の日本語勉強会を実施。初参加者もあり、季節の話題なども取り入れながら楽しく進めました。

NHK山形の取材も入り、ニュースで紹介されました。

(生活相談員 奥原 信)

スマホ問診は笑顔のもと

〈宮崎〉日向病院

日向病院小児科では昨年10月からAI問診を導入し、スマートフォンでQRコードを読み取って行なう「スマホ問診」も可能です。スマホ問診は、自宅でも来院途中や来院後の待ち時間でも、いつでもどこでも操作可能。患者さん・保護者の受診にかかる時間も、当院スタッフの業務にもゆとりが生まれ、小児科発熱外来も受診制限をせずに対応できています。



「6月と8月に赴任した原尾拓朗医師、渡邊啓夢医師としっかりコミュニケーションを取りながら、看護師が診察や処置の介助に専念できるようにになった」と、看護師の高橋明紀さん。スマホ問診を取り入れたことで、笑顔あふれるハートフルな小児科チームはより一層丁寧な、受診する子どもや保護者と向き合えるよう

になりました。
〈済生記者 村尾 愛〉

〈新潟〉なでしこ青空保育園
みんなでなでしこ祭り

94人の園児が9月13・14日に秋のなでしこ祭りを楽しみました。



4〜5歳児がクラスごとに、「どうしたらみんながたのしめるかな」「ちいさいあかちゃんもよるこぶものがいいね」と、出店のアイデアを練りました。迎えた当日。お化け屋敷・お面屋さん・金魚すくい・クッキー屋さん・ヨーヨー釣り・くじ引きなど、楽しいお店が盛りだくさん。「いらっしやいませー」

と元氣な声が響きました。最後にみんなで「くわがた音頭」を踊って締めくくり。コロナ禍で他クラスとの関わりが減っていた中、異年齢と触れ合うよい機会となりました。
〈済生記者 渡辺美咲〉

〈栃木〉うつのみやなでしこ
おいしいカレーつくったよ
保育園

うつのみやなでしこ保育園は10月19日、幼児組を対象にした調理体験「なでしこクッキング」を開催しました。



メニューは、菜園活動で収穫したジャガイモを使ったカレー

ライスです。園児は包丁で切る下処理までを担当し、その先は調理員さんにバトンタッチ。自分たちで作った喜びや満足感で、この日のカレーはいつもよりおいしい給食になりました。

ただ作るだけでなく、事前に絵本で栄養素の働きを学び、バランスよく食べる大切さを考えるゲームも取り入れました。初めて包丁を使う園児がほとんどでしたが、新しい挑戦に目を輝かせる姿が頼もしく、楽しい調理体験でした。
〈保育施設事務 福田 郁〉

〈山形〉特養ながまち荘
帰ってきた当たり前の時間

「本人が自宅に帰りたいと言っている。見せるだけでもいいので」——妹のカツ子さんたつての願いで、入居している姉・みち子さんの外出を11月8日に実施しました。

みち子さんが入居したのは3年前。次第に体力が低下し、現在はターミナルケア中です。コロナ禍の面会制限前は、併設のデイサービスを週2回利用するカツ子さんが、居室まで歩行器を押し面会に。カツ子さんの話

をうなずきながら聞くみち子さん。そこには姉妹の穏やかな時間が流れていました。この日の外出は、ターミナル期でコロナ禍でもあり不安もあ



りましたが、看護師・相談員と連携し無事に実現できました。久しぶりの自宅では、カツ子さんが話し、みち子さんがうなずくいつもの光景が。20分ほどの滞在でしたが、仲良し姉妹の、当たり前前の時間を、少し取り戻せた気がしました。
〈介護職員 齋藤未来〉

滋賀県病院
高校生3人が取材で来院
看護や災害医療を学ぶ

県立守山高等学校の生徒3人が11月9日、「総合的な探求の



時間」の授業の取材活動で来院しました。これは生徒個々が興味・関心に基づく研究テーマを設定し、主体的な取材学習や調べ学習で、自ら学び考える力を培う授業です。3人のテーマは①患者とのベストな関わり方②技術だけではない「見る」看護③現代の災害医療——の三つ。

取材に先立ち、東海弓感染症管理認定看護師が、手指消毒をレクチャー。その後、生徒はおのおの取材先（SCU・6階西病棟（主に血液内科・糖尿病内分分泌内科の混合病棟）・救命救急センター）に分かれ、積極的風景を見学しました。コロナ禍で取材を受け入れたのは3年ぶりでした。3人の生徒のより深い学びにつながることを期待しています。
〈済生記者 西澤真由美〉

〈兵庫〉特養ふじの里
ポンポンづくりに
楽しもうととき

11月10日の運動会で使用するポンポンづくりを、ユニットの入居者さん3人と一緒に10月下



旬から始めました。ビニールテープを指先で裂いていきますが、「うまくできない」と入居者さん。他の入居者さんのアドバイスで、最後までやり遂げることができました。苦労して出来上がったポンポン。「私のより、あなたのがきれいな」と褒めたり、手に持って「こうやって使うの」と教えてみたり、普段とは違う会話も生まれました。そして最後は「あ、指が痛いわ」とみんなが笑い合いました。
〈西館ユニットリーダー 村上高子〉

夜勤前の心構えを伝授

〔三重〕 明和病院

明和病院は10月3日、新人看護師に対し「夜勤前の心構え」の研修を実施しました。
内容は医療安全が主体で、夜勤をイメージしたKYT（危険予知訓練）や患者誤認・転倒事故の防止策を実施。さらに夜間や看護職員が少ない時間帯でも患者さんの急変に対応できる



よう、救急搬送手順・AED・救急カーブを確認しました。

実技研修では最も一般的な「12誘導心電図検査」の測定を行ないました。電極を付けるところから始め、苦戦しながらも全ての新人が一人で測定できるレベルに到達。最初の緊張した表情が、「できた」という達成感に満ちた顔に変わりました。
コロナ禍で、実習も含めて制限の多い学生時代を過ごした新人看護師たち。こうした体験を通し成長する姿を見守れることに、指導者として大きな喜びを感じています。

（看護師長 椿 真弓）

マンモサンデーに47人

神奈川県病院

神奈川県病院は10月16日、「日曜日に乳がん検査を受けられる日（マンモグラフィサンデー）」を開催しました。
当日は20〜80代の47人が、マンモグラフィや乳房超音波検査を受診。検査の待ち時間には、自己触診の解説DVDの視聴や触診モデルの体験を通して、セルフチェックの大切さも学んでもらいました。



加えて、乳がん看護認定看護師が個別の相談に対応。「何歳まで受診したらよいのか」「出産後の受診はどのようにしたらよいのか」などの質問に一つずつ丁寧に回答しました。

受診後アンケートでは「日曜日に検診を受けられるのはとても助かります」「毎年安心して気持ちよく検診しています」「院外に貼ってある検診ポスターを見て、受けようと思った」などの感想がありました。
今後多くの女性に乳がん検診の大切さを広めていきます。
（予防医療センター事務 馬場加奈子）

救急医療功労者知事表彰

和歌山病院

和歌山病院はこのたび、地域の救急医療確保・救急医療対策の推進に貢献したとして、令和4年度の和歌山県救急医療功労者知事表彰を受賞しました。

当院は、1964年9月に救急告示医療機関に指定され、以来24時間365日、和歌山



医療圏を中心とした救急医療を積極的に取り組んできました。
職員一人ひとりの救急医療に対する意識の高まりもあり、近年は年間2000台以上の救急車を収容するなど、地域の救

急医療確保に貢献しています。
この受賞を励みに、さらに地域から信頼され必要とされる病

「好きなのはこの絵だよ」絵本を壁に

静岡済生会総合病院

静岡済生会総合病院は10月26日から、済生会創立110周年記念絵本「ずーっとさいせいかい」の一部を南館1階小児科前通路に展示しています。
「たくさんの人に見ていただけるよう通路に大きく展示しよう」と、絵本を見た杉原孝幸事務部長が発案。小さな子も見や



すいように、展示する高さは視線に合わせました。
その近くにはパンフレットスタンドを設置し「ずーっとさいせいかい」を配架。壁面展示に興味を持った来院者さんが絵本を手にとって、詳しく見てもらうための工夫です。
撮影をしていたら、壁の展示を見ていた小さな兄妹がそれぞれのお気に入りの絵を教えてくれ、その前でっこりポーズ。この取り組みが、済生会の歴史や取り組みを知ってもらおうきっかけになればうれしいです。

（済生記者 酒井あい）

（MSW）が優秀演題賞を受賞しました。
演題は「病院が実施するコロナ禍における女性支援体制の構築〜宇都宮市つながりサポート女性支援事業〜」。当院がこの事業を受託した背景、相談実績、NPOなどと連携した支援体制を熱く紹介しました。
「当事業は女性支援団体に限らず子どもから高齢者分野までの幅広い団体が連携することで、全世代型の重層的なネットワークとなっているのが特長。今後もしソーシャルインクルージョンの考えのもと、団体同士の横のつながりを大切にして地域力を高め、シームレスな支援提供体制の構築を目指していきたい」と、稲見課長は述べています。

（地域連携課 秋山綾香）



稲見課長が優秀演題賞つなサポの学会発表で

〔栃木〕 宇都宮病院

10月22日に芳賀赤十字病院で開催された第21回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会で、稲見一美地域連携課長



「なでしこ保健室」大盛況 長島敦院長も飛び入り参加

神奈川県病院

神奈川県病院は10月9日に開催された神奈川県民まつりに「なでしこ保健室」を出店しました。会場は徒歩10分ほどの反町公園で、7万人ほどが来場する区内最大級の祭典です。コロナ禍は中止やオンライン開催が続く、4年ぶりの現地開催となった今年の出席数は以前の半分程度でしたが、約4万人が訪れにぎわいました。

なでしこ保健室にはオープン直後から順番待ちの列ができ、様子を見に来た長島敦院長が急きよ健康相談ブースの応援に入るほどの盛況ぶり。午後になっても列は途切れることなく、計83人に無料の健康相談や血圧測定を実施しました。

来場者さんや隣のブースの店者さんには、済生会とユニクロが社会貢献活動で協力していることを紹介。ユニクロのマスクを配布すると感謝の声が返ってきました。

(MSW 鎌村誠司)

〈北海道〉みどりの里

晴れ着で二十歳を祝う

みどりの里は11月9日、今年新成人を迎えた男性1人・女性2人の「はたちを祝う会」を開催しました。

女性はきれいな晴れ着、男性はカッコいい羽織はかまで入場。提裕幸施設長、担当の先生方、大橋とも子療育看護部長から温かいお祝いの言葉が、みどりの里父母の会からもメッセージと素敵な花束が贈られました。続いて、幼少期から現在に至る思い出をスライドで上映。あ



んなに小さかったんだね」「こんなに大きくなって」と、一同感慨深く見入りました。コロナ禍でご家族の列席はかないませんが、手紙を書いてもらったりリモートで参加いただいたりして一緒にお祝いできました。3人の新成人が、元気に穏やかで幸せな日々を過ごせるよう心から願います。

(介護福祉士 金谷麻実)

〈山形〉養護(盲)老人ホーム
山静寿

山形の秋は「羊煮」

山形の秋といえば、山形市馬見ヶ崎河川敷で催される日本一の羊煮会フェスティバル。その雰囲気も少しも味わっていたら、10月20日に食堂で羊煮をしました。

山形の羊煮は牛肉を使ったようにゆ味。入所者のみなさんへ手伝ってもらったおにぎりと一緒に供しました。「うまい!」「味が甘いな」と、それぞれの嗜好もありながら、おなかいっぱい完食し、満足いただけました。

食後はみなさんで俳句と川柳を披露し、更けゆく山形の秋を

満喫しました。

(済生記者 丹 秀樹)



〈静岡〉特養小籠苑 華やかに敬老を祝う

小籠苑特養部は9月18日に敬老会を開催しました。

傘寿の2人と米寿5人は黄色白寿の1人は桃色、百一賀の1人は金の年令別ちゃんちゃんこを着用。普段と異なる装いで皆さん若やぎ、うれしそうな表情が見られました。

お祝いの品を贈る式典に続き、職員が出し物を披露。「炭坑節」を利用者さんと一緒に踊りました。振りつけを忘れる職員がい

たのはご愛嬌で、とても盛り上がりました。

今年もコロナ禍の開催となり、ご家族の来苑はかありませんでした。来年こそはみなさんと一緒にお祝いし、楽しいひと時を過ごしたいと願っています。

(済生記者 平原 聡)

〈埼玉〉加須病院

前残業の削減の工夫を NHK「あさイチ」で紹介

加須病院看護部の「前残業の削減」が、NHK総合テレビ「あさイチ」で11月14日に紹介されました。視聴者から寄せられた声をもとに、普段は気に留めないルールや慣行を深掘りするコーナーです。

始業前に働き始める「前残業」は、看護業界で大きな課題となつていきます。放送では、この削減を目指し当院が取り組む二つの事例が紹介されました。

一つは、丁寧なコミュニケーションによる対話を通じた、看護職員一人ひとりの意識改革。二つ目は、ベットのサイドシステムや院内専用スマホなど、システムの活用で業務効率を高めたことです。



結ヶ瀬光子看護部長は「現場では何に困っていてどうしたらいいのかを、しなやかに、それぞれに寄り添って一つずつ解決していくことが重要です」と、インタビューで答えました。

(経営企画課 蓬田絵里子)

〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院

交流って大事ですね

龍ヶ崎済生会病院は10月26日、医療技術部と薬剤部の交流会を開催し、入職3年目までの職員18人が参加しました。

目的は他部署の職員との交流。



参加者は3チームに分かれ、記憶力と画力が試される2種類のゲームを実施。笑い声やうなり声が絶えない、楽しい時間となりました。

ゲームは入職2年目の職員が企画。万全の感染対策の中でも楽しく交歓できるよう、数カ月かけて練ったといえます。

参加者は「盛り上がりつつ楽しかった!」「コロナ禍で入職し、ずっと制限が続いてきた中で、交流が深められたすてきな催しでした」と大好評。2020年度から歓迎会は開催していませんが、今後は同様の交流会を他部署でも開催していけたらよいなと思いました。

(済生記者 堀越琴美)

兵庫県病院
総務課、業務改善中

兵庫県病院総務課は、今年度実施したシステム更新を機に、電子化による業務改善を進めて



います。

まず給与明細書。500人超の職員分の電子化で、給与日前の業務量が大幅に削減できました。いつでも過去の給与明細を簡単に確認できるので、全職員にメリットがある改善です。

もう一つ、いまが佳境の年末調整も大変革がありました。本年度から、職員自身が年末調整用の院内ポータルへ情報をおのり入力する形となったのです。入力した数値は自動計算され

るため人的ミスが削減されます。総務課への問い合わせもぐんと減り、紙の帳票に記入していた従来に比べて、提出の有無や内容の確認もしやすくなりました。

(済生記者 渡邊良子)

〈山形〉特養愛日荘

山辺高の介護実習生も参加
30人で総合防災訓練

愛日荘は11月16日に総合防災訓練を行いました。職員・入居者さんと、県立山辺高等学校の介護実習生の約30人が参加しました。

午前10時25分に震度6弱の地震があり、その後火災が発生し



たと想定。地震によるけが人の対応と火災発生時の消火活動、入居者役職員の避難誘導や、負傷者役の介護実習生を2階から1階の避難場所へレスキューボードを使い階段で下ろす訓練を行いました。

訓練後の振り返りでは「きちんと情報を伝えることや、安心できる声掛けが大切と感じた」などの感想が出ました。

(済生記者 高橋 睦)

〈栃木〉宇都宮病院

家族介護教室で講話

宇都宮市が錦地域コミュニティセンターで10月25日に行なった家族介護教室で、当院地域連携課の稲見一美課長(MSW)と菊地悠一郎係長が講師を務めました。

菊地係長が「病院との上手な付き合い方」と題し、病院とクリニックの役割や機能の違いなどを丁寧に説明。次に稲見課長が、有事に備えて平時からかかりつけ医を持つことの大切さと、急変時の延命治療や人生の最終段階をどう過ごすかなど意思を確認しておく「人生会議」の必要性を話しました。



参加者は、「知らないことが多く大変勉強になった」「かかりつけ医の大切さがよく分かった」「早速家族で人生会議をしたい」と話していました。

(地域連携課 秋山綾香)

患者さんをもっと快適に
スタンディングチェア設置

〈埼玉〉川口総合病院

川口総合病院はこのたび、整形外科外来の待合スペース壁沿いにスタンディングチェアを設置しました。

膝痛・腰痛などで椅子に腰かけるのが難しかったり立ち上がりが



つらかったりする人への配慮です。患者満足度向上に取り組むCS向上委員会の発案で、整形外科の医師・スタッフと相談・検討を重ねて導入しました。

CS向上委員会委員長の窪田研二副院長は、スタンディングチェアの座り心地を確かめながら設置意図をこう述べました。「脊椎や脊髄疾患を得意とする当院の整形外科に通う患者さん

の中には、座る・立つという動作が大変な人もいます。そういった患者さんの待ち時間が、少しでも過ごしやすいものになればうれしいです」

(済生記者 原 衣里奈)

〈兵庫〉特養ふじの里

ハッピーハロウィン

待ちわびていたハロウィンが今年もやってきました。神戸市重症心身障害者日中活動支援事業「済生会ハローモニー」では9月から構想を練り、パーティションを活用して臨場感のある舞台装置作りから始めました。

そして10月31日のハロウィン当日、利用者さんも職員もデイズニーなどのコスチュームに大変身。待ちきれずに自宅から仮装して来た人もいました。

いざ、清田はるひ所長も松永りか副所長も一緒に特養のデイサービスまで大行進。ハロウィーンを知らず「なににごと？」とキョトンとする利用者さんに「洋風の地蔵盆みたいなものです」とこじつけて説明すると、ますますキョトン……(汗)。でも興味津々で近寄って来て「かわいいねえ」と声をか



けていただき、よい交流ができました。

来年は清田所長にも仮装してもらいましょう(笑)。

(済生会ハローモニー サービス管理責任者 鳥居信彦)

〈大阪〉吹田病院

医療費を後払いできます
「待たずにラクくだ」導入

吹田病院は11月1日、医療費後払いシステム「待たずにラクくだ」を導入しました。待ち時間短縮、3密回避、駐車場の混雑緩和など、患者満足度向上が主目的です。4月に内製化した外来医事務のピークタイム負担軽減につながることも期待し



事前にクレジットカード情報を登録しておけば簡単に利用できるこのシステム。導入前に公式LINEで行なったアンケートでは、「利用したい」が69・6%で、すでにクレジット払いを利用する患者さんの割合を2割上回っています。

導入に向けてはワーキンググループを立ち上げ、工程表に基づき、担当者が定期的に進捗を確認しながら準備。各自が役割を遂行し円滑に導入できました。なお、当システムは寄付を活用し導入しました。ありがとうございます。

(事務次長 上島照美)

長崎病院

救急車だつて仮装します

長崎病院は10月29日、地元・新大工町商店街のハロウィーンパーティーに参加し、仮装した救急車に乗車体験してもらいました。

生後3カ月の赤ちゃんから高齢者まで350人以上が、ハロウィーン仕様の救急車に乗車。プレゼント用のお菓子を買い足すほどの、予想をはるかに上回る人気にスタッフはうれしい悲鳴を上げました。

乗車体験後の記念撮影では



「本物の救急車に乗れるなんて感激です!」と、お子さん以上に喜ぶ親御さんもいました。「来年も楽しみにしています」とうれしいうりクエストをいただいたスタッフは、早くもその構想を練り始めました。

(済生記者 平川幸子)

〔福井〕ぼっかぼっか園

にこにこハロウィーン



院内保育所ぼっかぼか園で10月31日にハロウィーンパーティーを行いました。オバケやウオーリーになりきって準備万端の子どもたち。はじめは緊張気味だった子ども、手

遊びをしたり踊ったりするうち、表情が和らいでいきました。一番盛り上がったのはメダル探しです。ホール内に隠したメダルを見つけ、「あった!」と大喜びするみんな。5枚見つけた子もいました。

首には誇らしげにメダルを下げ、手にはたくさんのお菓子を持って笑顔でパシャリ! その笑顔に癒やされました。

(保育士 西川栄美)

〔三重〕明和病院

済生会フォーラムを堅持

11月12日、恒例の済生会フォーラムを催しました。コロナ禍の開催は昨年に引き続き2回目で、感染対策を徹底した小規模の集まりとなりました。

済生会フォーラムは、三重県支部の松阪総合病院と明和病院が、日頃の業務や研究成果を発表し情報交換する目的で毎年開催し、今回が46回目の歴史あるイベントです。

今年も、両病院とも昨年より一つずつ多い計10演題をエントリー。看護師・介護士・医療技術部・相談員・事務員など多職種が登壇し、学びのある内容を



発表しました。活発な質疑応答も行なわれ、両病院にとって有意義な会になりました。

これからは松阪総合病院と明和病院で切磋琢磨し、この地域の医療を支えていきます。

(資料整備課 山本崇人)

〔埼玉〕川口看護専門学校

3年ぶりの研修旅行 済生丸にへき地医療を学ぶ

川口看護専門学校は10月26日から2泊3日で、2年生34人と引率の教員3人が瀬戸内海へ研修旅行に出かけました。コロナ禍は中止が続き3年ぶりの開催です。

まず向かったのは岡山に寄港していた瀬戸内海巡回診療船・済生丸。船長さんをはじめ、船舶事業所の職員さんから、次のような貴重な説明を受けました。済生丸は国内唯一の診療船で、離島の巡回診療などへき地治療で大きな役割を担っていること、そして検診や健康教室などを通じて人と人をつなぐ交流の場



にもなっていることなどです。今回の研修旅行は、これから看護師として巣立っていく学生たちにとって、予防医学やへき地医療のあり方を学ぶよい経験になりました。天候にも恵まれ、瀬戸内海の気持ちよい潮風も学生たちを後押ししてくれました。

(教務主任 中島由希江)

〔栃木〕宇都宮病院

園児を感染症から守る

感染管理認定看護師の筆者は11月16・17日、なでしこ保育園と病児保育施設おはなほいくえんの保育士を対象に「冬に流行する疾患への感染防止対策について」の勉強会を行いました。感染性胃腸炎の吐物処理では、吐物の性状や高さによって2〜3メートル程度飛び散るため、3メートルのテープを使い清掃範囲を可視化すると説明。防護具の着脱は保育士に体験してもらい「特に脱ぐときが注意」と強調しました。

今冬はコロナとインフルエンザの同時流行が予想されています。ほかにも子どもがかかる冬の疾患は多く、現在実施している感染防止対策を一人ひとりが



振り返り「なぜ必要なのか」とその重要性についても話し合いました。

(感染管理認定看護師

菅家友規)

〔石川〕金沢病院

コロナとインフルの同時流行に備える

当院・感染対策室室長の方堂祐治医師が10月25日、「新型コロナウイルスとインフルエンザ同時流行に備える」のテーマでNHK金沢放送局の取材を受けました。当院は感染対策室を中心に、コロナ第8波とインフルエンザが同時流行しても、発熱外来で円滑に対応できるように準備中。



方堂医師は最後に「患者さん自身が検査キットや解熱剤の準備をするなど、セルフメディケーションが重要」と説明しインタビュを締めました。この模様は11月1日の18時と20時台のニュースで2回放送されました。

(済生記者 中川範彦)

家族に日頃の学び披露

第43回なでしこ祭

静岡済生会看護専門学校

静岡済生会看護専門学校は10月22日、第43回なでしこ祭を開催。「コロナ禍で学校行事に参加してもらえなかった家族に、日頃の学びを披露したい」との学生の思いをかなえるため、家族を招待しました。



今年のテーマは「結(ゆい)」。校内はもちろん学習を通じた地域との結びつきや、地域全体を明るくしたいという思いをこの一字に込めました。当日は基礎看護・小児看護・災害看護など九つの分野ごとに学習成果を展示。46人の家族が来校し、「入学式も学生だけで行なわれたので、子どもの学校生活を知るよい機会になった」と喜んでいただけました。自分たちが学んだことを来校者に伝える学生の表情はいきいきと輝いていました。

(済生記者 酒井あい)

院長先生なにしにきたの？

(福岡) 大牟田病院

大牟田病院では毎年10月31日のハロウィーンに、仮装をした託児所ひまわりの子どもたちが保育職員と共に、院長室・看護部長室・事務所へお菓子をかねだりに来るのが恒例です。今年はその逆で、稲吉康治院長と八谷恵看護部長が子どもたちのいる託児所を訪問し、お菓



子をふるまいました。子どもたちは大はしゃぎで二人を出迎え、お菓子を抱えて満足顔。みんな写真を撮りました。2015年4月の開所から7年経ったひまわり。さまざまな行事を準備し子どもたちを育てる保育職員には、職員一同いつも感謝しています。

(済生記者 中村 博)

「いとしげらね」保育園児との交流、復活

(新潟) 特養長和園

長和園は10月27日、コロナ禍でやむなく中止していた、なでしこ青空保育園との交流会をり



な中で、感動のあまり涙を流す利用者さんもありました。離れた場所からでも、子どもたちの元気な姿は利用者さんに癒やしと喜びを届けてくれます。お札に手紙と貼り絵を送ると、園児からも「ありがとう」と連絡があり、交流が途絶えること

親子でハロウィーン

(埼玉) 川口総合病院

当院付属のなでしこ保育園の子どもたちが10月28日、ハロウィーンの仮装をして病院へ遊びに来てくれました。

プリンセスやスパイダーマン、戦隊ヒーローなど、

子どもたちは好きなキャラクターに扮してウキウキの様子。病院で働くお父さん・お母さんが



なく続いています。

(済生記者 西川まゆみ)

錯綜する情報を迅速正確に文字起こしする難しさ

(奈良) 中和病院

11月19日に奈良県が主催するDMAT訓練に向け、同11日



に院内訓練を実施しました。筆者は記録・連絡係部門で、受付係を務めます。この部門では、本部長の指示を連絡係に伝える「受付係」、その指示を各部署に伝える「連絡係」、本部に入ってきた情報や決定事項などを時系列で書き記す「クロノ

ワクワク献立にノックアウト

(宮崎) 日向病院

日向病院では月に一度、行事食やバラエティー弁当の日があり、10月は20日の入院昼食で提供しました。

普段はお盆に食器を並べて配膳しますが、バラエティー弁当は、ご飯と汁物以外を弁当の折に盛りつけます。この日はトウモロコシご飯に鶏のはちみつ焼き、付け合せの野菜と煮物に、デザートはブドウです。「いつもの食事とは見た目が違い特別感がある。味もおいしい！」と、



患者さんに大人気。「入院患者さんに少しでも待ち遠しく思ってもらいたい、季節も実感してほしい」と、管理栄養士と給食室スタッフが工夫した献立や盛り付けです。月に一度のワクワク献立。試食するまでもなく、食欲を誘う香りと見た目でノックアウトされました。

(済生記者 村尾 愛)

熊本福祉センター

境内も心もすっきり！

秋が深まった先日、当センターから徒歩5分の八幡宮に利用者さんと散歩も兼ねて地域活動の一環で清掃に行きました。樹齢の長い落葉樹が社殿を守る境内に踏み入ると、足元はイチョウの葉や銀杏でいっぱい。社殿に「お掃除させていただきます」



ます」と一礼し清掃開始です。竹ぼうきでひたすら掃き続ける作業に時間を忘れて没頭。ふと気がついたら地面が顔を出している、手をとめ呼吸を整えると、境内も心身もスッキリきれいになったのを感じました。「いつも、お守りいただきありがとうございます、また来ます」

とお祈りして終了。清々しい気持ちで帰路につきました。不定期の取り組みですが、回数を重ね、近所のみならずとも交流する場にしていきたいです。(済生会ほほえみ 支援員 岩下慶子)

奈良病院

ふれあい秋まつりに参加

11月3日の第一回大安寺西地区ふれあい秋まつりに、ケアプランセンターすずらん・訪問看護ステーション野の花・三笠地域包括支援センターの職員20人



が参加しました。

当院が開設した健康相談ブースでは、血圧・酸素飽和度・体脂肪率を測定。心身の悩みから世間話までをじっくりと聞かせていただきました。

スタンプラリーのスタッフも担当。スタンプをもらうため、子どもたちが会場内に散らばったスタンプを探し回りますが、なかなか見つからずあふたし、会場が盛り上がりました。(看護師 岡田大輝)

〈兵庫〉特養ふじの里

3年ぶりに家族を招待 華やかな秋祭り

10月16日に3年ぶりにご家族を招き秋祭りを催しました。昼食は屋台のたこ焼き、焼きそばなど、お祭り気分を味わえる食事で、普段小食の入居者さんもたくさん召し上がりました。出し物も一工夫。まずは美空ひばりさんの「お祭りマンボ」に合わせて、ふじの里・なでしこ神戸の女性職員がおみこしを担いで登場。場が華やいだところで、特養3部署の職員がマツケンサンバ、アナと雪の女王、マリオカートに扮し玉を割り



ました。

恒例の盆踊りときよこいには、入居者さんも参加。その様子を屋外から鑑賞するご家族も楽しそうでした。入居者さん・ご家族と職員が一緒にすてきな時間を過ごせてうれしかったです。(東館介護士 市井雄太郎)

〈栃木〉宇都宮病院

ドクターカーも出動！ 防災・救急フェアに協力

11月13日にミナテラスとらぎ(宇都宮市)で宇都宮市南消防

署主催の防災・救急フェアが開催され、当院は協力病院としてイベントを盛り上げました。

当日の来場者は1万人超と大盛況。消防が救助工作車・ポンプ車などを並べる中、当院はドクターカーを展示。同行した医師・看護師・救命救急士が、心肺蘇生体験コーナーやドクターカー内で多くの来場者に対応しました。講話を行なった小倉崇以救命



救急センター長は「市民と救急隊・ドクターカーの連鎖でかなう社会復帰への、救命の連鎖の実現に向け、とてもよいイベントとなった。多くのみなさんに、救急医療に興味を持っていただけてうれしく思う」と述べました。(地域連携課 秋山綾香)

〈広島〉老健はまな荘

本部・奥野専門員に学ぶ 災害対応とBCPの必要性

はまな荘は11月1日、済生会本部から奥野史寛危機管理専門員を講師に招き、災害に関する研修会を実施しました。講演テーマは「大規模災害とBCP(業務継続計画)の必要性」。南海トラフ地震発生時に当施設で想定される津波の高さや、平成30年7月豪雨を題材にした話に、職員は緊張感を高めて聞き入りました。講演後、「災害時に有効な通信手段は？」「今後の訓練の実施方法は？」など、具体的な質疑応答に職員の意識変化を感じました。他の社会福祉法人もBCP対応に困っているとよく耳に



システムがありとても助かります。今後も、奥野危機管理専門員の指導の下で訓練を継続して問題点を抽出・修正し、BCPをブラッシュアップしていきます。(済生記者 佐藤 聡)

〈大阪〉泉尾病院

緊急時対応を学ぶ見学会

大阪市立総合医療センターのロビーで10月22日に開催された「医療機関における不審者対応・避難訓練見学会」に、泉尾病院の事務職員2人が参加しました。この訓練は、大阪府警察本



部・都島区医師会・都島警察署・都島消防署の共催。出入口が1カ所しかない医療機関を想定し、警察官や消防士が不審者対応や避難などを行なうものです。臨場感満点の不審者役の迫真の演技を見学しました。不審者が来院した際は、まず患者さんと職員をできる限りそこから遠ざける、そして速やかに110番通報を行なう——これが被害を最小限に抑えるために大変重要だと分かりました。訓練後半は、映像でさすまたの使い方を説明いただきました。今回学んだことは院内に還元していきます。(庶務課 星野清之)

今年3回目の災害対策訓練
トリアージ搬送を確認

〔神奈川〕若草病院

若草病院は年5回計画する災害対策訓練の3回目を、10月18日に実施。震度6の地震を想定し、災害救護外来を設置して受け入れるトリアージ搬送訓練で



を確認しました。

同様に、中等度の黄色エリア、重症の赤エリアも旗を置き、職員は手慣れた様子で備品を配置して受け入れ開始。トリアージタグを載せたストレッチャーは大きな混乱もなく指定場所に搬入でき、各担当者が手順を確認しました。

混乱を避け、外来患者が少ない時間帯に実施したこともあり、ストレッチャーが何往復もする一見煩雑そうな訓練は、見た目に反して粛々と進められました。

（済生記者 高木裕子）

〔新潟〕三条病院

足を挟んで逃がさない！
新型さすまた使い方研修

三条病院の附属保育園たんぼぼで11月11日、新規導入したさすまた研修を行いました。

新しいさすまた「あしどめくん」は、相手を押さえるだけの一般的なさすまたとは大きく異なり、ひざ下に突き当てると先端のはさみ状のアームが足を挟み込んで閉じ、一人では取り外せなくなるのが特長です。

長い柄が邪魔になって、相手は追いかけることも逃走するこ



とも難しく、職員は挟んだのを確認したら速やかに安全な場所へ避難できます。アルミ製で軽量なため、腕力のない女性も簡単に使いこなせ、女性職員の多い保育園には適しています。

使用しないに越したことはありませんが、万一に備えた研修は大切と考えさせられました。

（済生記者 丸山良樹）

滋賀県病院

吉岡副院長が厚労大臣表彰

9月9日に行なわれた救急医療功労者厚労大臣表彰で、当院整形外科の吉岡誠副院長が表彰を受けました。

の救急医療に貢献したいという思いを新たにいたしました」

地域の中核病院として、当院は職員一丸となって救急医療の提供に努めていきます。

（広報企画室 森 怜子）



吉岡副院長は「長年にわたり『断らない救急医療』を実践してきた滋賀県病院の全職員に対していただいたもの」と謝意を表した上で、次のように抱負を述べました。

「副賞の楯は、医学の父ヒポクラテスの肖像です。この受賞を機に『ピポクラテスの誓い』を読み直して新米医師であった頃の自分を振り返るとともに、微力ではありますが、今後も地域

福祉のこころ伝える小中学校への出前授業

〔山口〕には苑

当苑は、福祉のこころや仕事の魅力を伝える出前授業を地域の小・中学校で行なっています。9月27日は仁保小学校で4年生12人に、視覚障害者への接し方や介助方法の講和と疑似体験を実施。講師は、渡邊和喜相談員と岡崎智子ヘルパーです。アイマスクでの階段昇降では「階段が見えない怖さ

づくりに挑戦。「コミュニティが高くて、頭の回転が速い」「人を安心させて感謝される人」など、生徒がすてきなワードをたくさんつづってくれました。講師2人は「介護がよいイメージでよかった」「ラベリングのような人になりたい」と感激していました。

（済生記者 楊 玉華）

〔大分〕日田病院

日田市の関係者と連携
総合防災訓練に参加

日田病院は10月8日に行なわれた大分県・西部地区等総合防災訓練に、警察・消防・大分赤十字病院・日田市医師会・昭和学園高校などとともに参加しました。

訓練は、数日間大雨が降った後に巨大地震があり、日田市で複合的な災害が発生したと想定。災害現場に当院DMAT2隊が出動し、大分赤十字病院・消防と連携して、救護所活動や当院を含む近隣病院への患者搬送を行ないました。

糖尿病・内分泌内科の白井州樹部長が10月27日、近隣の老人ホームで出張医療講座「栄養で防ぐフレイル・サルコペニア」を行ない、約60人が聴講しました。

神奈川県病院

白井部長が出張医療講座

白井部長は、糖尿病はどのような病気でフレイル・サルコペ

ニアにどう関係しているか、どう防ぐかなどについて説明。「糖尿病を気にしすぎて糖質制限のみにこだわった食生活を続けるとよくない」「高齢者は好きなおやつを無理に我慢する必要はない」などの話に、皆さん大きくうなずいていました。

高血圧と塩分量などの質問を受けるなど、健康意識の高い参加者は「非常に聞きやすく分かりやすいお話で、とても勉強になりました」との感想。老人ホーム担当者も「今後もさまざまなテーマでお願いしたい」と、継続開催を要望いただきました。

（済生記者 小山友輝）



も、サポートしてくれる人がいると思ったより感じなかった」と気づいてくれました。

10月6日は仁保中学校2年生15人を対象に、講話や車いす体験、グループワークを行ないました。この日の講師は、岡本堯之介護福祉士と渡邊相談員。

仕事の内容・やりがいの紹介後、「福祉の仕事をするって〇〇な人」というラベリング



熊本福祉センター
秋だ！みんなで動物園

熊本福祉センターの済生会ほほえみは11月12日、秋のレクリエーションで利用者さんと阿蘇カドリー・ドミニオンへ行ききました。



地元では「クマ牧場」と呼ばれる動物園で、いろんなクマに出会えます。ほかにもヤギの餌やり、乗馬体験、子ブタのレースなどで多くの動物と触れ合うこともできます。

中でも一番人気は、テレビ番組でもおなじみのチンパンジー・パンくん。愛嬌たっぷりファンサービスしてくれ、見ているだけで元気になりました。

この日は、絶好の紅葉日和。赤や黄に色づいた木々にすてきな秋を感じました。いろいろな動物と久しぶりにふれあい、ここに来るまで怖いと思っていた

クマも、とてもかわいく感じました。
(済生会ほほえみ)

支援員 石原志保

〈宮崎〉日向病院

楽しくリハビリ水曜日
風船も会話も笑顔も弾む

回復期リハビリ病棟は毎週水曜日がレクリエーションの日です。10月19日は患者さん・専従セラピスト・病棟スタッフで風船バレーをしました。



患者さんが輪になり、軽く準備運動をしてスタートです。「何回にしようかねえ、じゃ最初は

10回から」と、輪の中央に入った理学療法士の平出健一郎さんが声をかけ、風船をトス。

「いち、に、さん、し、……」と、みんなで声をそろえて数えると、目標の10回は難なくクリア。

「次は20回！」と、患者さんも応援するスタッフもみんなで声を掛け合います。それもクリアすると、会場は達成感いっぱい笑い声に包まれました。

風船も会話も笑顔も弾む、楽しい時間となりました。

(済生記者 村尾 愛)

〈和歌山〉有田病院

3年ぶりの健康フェスタ
「心待ち」の80人が来場

第17回済生会有田医療福祉センター健康フェスタを10月16日に開催し、約80人が来場しました。

コロナ禍で3年ぶりのフェスタは、各種相談（医師・薬剤師・認定看護師・管理栄養士等）、身体測定（血糖・血圧・体年齢・血管年齢等）、体験（AED・コグニバイク）、イベント（大抽選会）などを実施。そのほかに、当センターの伊藤秀一総長



の特別講演「生命（いのち）輝く生活習慣病術」や青石博文技監の「運動は万能薬？」、田中裕子看護課長の「訪問看護ってなに？」の講演など盛りだくさんの内容でした。

来場した皆さんから「フェスタの開催を心待ちにしています」「講演が勉強になりました」とたくさんの温かい言葉をいただきました。

(済生記者 大向伸正)

〈広島〉特養たかね荘
久しぶりの行事イベント

たかね荘は10月に久しぶりの行事イベントを実施しました。新型コロナウイルスが流行して3年。

まだに外出がままならない中、施設内行事担当職員から「いまの感染状況・気候なら外出のチャンス」と提案があり、行事計画を練り直したのです。

午前中は施設周囲を散歩しました。最高齢の利用者さんは



「気持ちがいいね」と話し、色づき始めたモミジの木の下で唱歌「紅葉」を歌い出す人も。看取り期の利用者さんご家族とともに散歩し、かけがえのない時間を過ごしました。

午後からは施設内のイベントです。ボウリングに輪投げ、くじ引き、ヨーヨー釣りなどのプ

滋賀県病院

2府7県で合同防災訓練

令和4年度近畿府県合同防災訓練が10月15・16日に長浜市・米原市で行なわれ、滋賀県病院のDMAT隊員9人が参加しました。

この訓練は近畿圏2府7県が



ースを作り、秋祭りの雰囲気を楽しんでもらいました。

準備は大変でしたが、利用者さんの笑顔を見ると「やってよかったな。明日からも頑張ろう」という気持ちになりました。

(ケアワーカー 弘岡 晃)

持し回りで毎年実施するもので、今年度は滋賀県が当番県。防災関係機関・関係団体・企業・地域住民参加の下、広域的な防災体制の充実・強化、県民の防災意識の高揚を図ります。

今回は柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯を震源とする大規模地震を想定。当院DMATチームは、トンネル内の多重衝突事故現場や土砂災害現場で救護所運営活動を行ないました。

今年の訓練では他府県の消防と連携を取る機会があり、より実践的な訓練になりました。病院とは違う環境下での他機関のDMATチームと協同した活動は、反省点も課題も浮き彫りになるとてもよい経験でした。

(DMAT隊員 今安弘樹)

山形県済生会

感染管理担当者が集合
感染対策プロジェクトで

山形県支部は10月19・26日の2回に分け、新型コロナウイルス感染対策プロジェクト実務研修を実施しました。福祉施設で相次ぐクラスターを鑑み発足した、感染対策プロジェクトの一環です。

個人防護服の目的や着脱方法、



れ、すでにクラスターを経験した職員も含め一同納得の表情。

感染拡大防止は、身につけた正しい知識を徹底して実践することにかかっています。参加者から各施設の職員へ周知し、一丸となって感染対策に取り組んでいきます。

(済生記者 鈴木宏次朗)

静岡済生会総合病院
南海トラフ地震に備える

静岡済生会総合病院は9月30日～10月1日に、南海トラフ地震を想定した大規模地震時医療活動訓練を実施しました。本訓練は政府主催で例年実施されるもの。今年度は愛知・静



岡・三重・和歌山の4県が想定被災エリア（訓練実施エリア）となり、災害拠点病院の当院は職員約40人が参加しました。訓練では、南館1階食堂に災害対策本部を設置。災害時の指揮命令系統の確立をはじめ、被

害状況の確認、空床確保訓練、被災地入りした災害派遣医療チーム（DMAT）3隊の受け入れなどを実施しました。診療訓練では、静岡市駿河区で被災者が多数発生と想定。患者トリアージと治療、災害カルテの記入のほか、入院適応を判断し、病床確保を担当する入院調整班との連携体制の確認も行ないました。

（TQRセンター 杉本友幸）

〈大阪〉中津病院

糖尿病について考えよう

中津病院は11月14日の世界糖尿病デーに啓発イベントを行いました。コロナ禍のため対面での糖尿病予防啓発は断念。糖尿病内分

泌内科のスタッフが作った、糖尿病の予防や治療継続の重要性を訴えるポスターを、総合受付周辺スペースに掲示しました。ほかにも、外来受付を飾り付けたら、病院入口の吹き抜け部分に垂れ幕を垂らしたり、電子掲示板でスライドを見せたり。病院正面玄関と噴水にも青い電飾を施し、さながら院内全体を使った装飾イベントのように。



そのせいか患者さんから「糖尿病の予防について生活習慣を考えてみます」と声が掛かり、スタッフの思いが伝わったと、うれしくなりました。

（済生記者 鈴木亜希乃）

〈大阪〉野江特養城東園

華やかな城東園文化展

特養・通所介護合同の城東園文化展を11月1日から7日まで1階ロビーで開催しました。特養は華道クラブが当日に実演を披露したほか、塗り絵など日々のレクリエーション作品を

出展。通所介護も壁一面に作品を出展するなど、コロナ禍で「出展数が少ないのでは」という心配をよそに、とても華やかな文化展になりました。「えっこれ私の？ センスないわー」と照れ隠ししながら誇らしげに自身の作品を見る入居者さんや、作品の前で記念撮影する人もいました。もっと多くの入居者さんに出展してもらえよう、クラブ活動以外でも個々の創作意欲を高めていきます。そして来年こそはご家族にも見てもらえることを願います。

（主任相談員 佃 一博）

11月開設の介護医療院で
最高齢・白寿のお祝い

鹿児島病院

鹿児島病院 鹿児島病院 3階に、11月1日に開設した「済生会かごしま介護医療院」で、最高齢の入所者さんの誕生祝いを行ないました。

この入所者さんは15日で満98歳、数え年では99歳となるので白寿のお祝いです。併設の鹿児島病院の患者さんを含めても最高齢です。



誕生日当日は息子さんに来院いただき、タブレット端末越しながら久々の親子水入らずの時間を過ごしてもらいました。息子さんは「苦しいこともあると思うけど頑張ってください。100歳まできばってもらわんと!!（頑張ってもらいたい

い」と長寿を祈ってメッセージ。息子さんには、入所者さんの写真に職員のメッセージを添えた職員手製の華やかなバースデーカードもご覧いただきました。これからも職員みんなで、入所者さんご家族の笑顔のための企画をしていきます。

（済生記者 竹中康代）

〈神奈川〉横浜金沢

医療福祉センター

アロマ香る外来

若草病院では薬剤部の宮永幸実係長が、平日の午前中に外来フロアでアロマセラピーを実施しています。「外来診察の不安や、気分の落ち込みを少しでも和らげられれば」と考えて始めた取り組みです。

アロマオイルは日本臨床アロマセラピー学会の公認資格者が選んだ、医療機関に適したものを使用。香りのテーマは季節ごとに変えています。冬は風邪対策で、殺菌・消毒作用、空気を浄化し感染を予防するブレンド。春は華やかな香りで、心のバランスを図り気分を明るくしてくれます。夏は、体感温度が下がる涼しげな香りです。



撮影日のアロマは、樹木の香りがテーマ。ヒノキやヒバなどなじみ深い木の香りを中心にハーブをブレンドしたもので、心を落ち着けイライラを鎮める効果があります。

（済生記者 高木裕子）

〈大阪〉吹田病院

登録医総会で
がん集学的治療を説明

吹田病院は10月29日、第16回登録医総会を催し、登録医・関係者47人が参加しました。

第一部は島俊英院長のあいさつに続き、令和3年度医療連携報告、放射線科で更新した3装置（MRI・血管造影装置）の紹介、腎臓内科・治村章恵科長

が就任あいさつ。さらに消化器外科・吉川卓郎科長が「進行大腸癌に対する手術を中心とした集学的治療」のテーマで、より高い治療効果を目指した当院のがん集学的治療を説明。特別講演で登壇したジャーナリストの鳥越俊太郎さんが「鳥越流がんと共に生きる」と題し、がん経験をユーモラスに語りました。第二部は、摂津市医師会の山内榮樹会長から来賓あいさつを賜り、岡上武名誉院長の主催者あいさつ、特養松風園・吹田療育園の藤井敏之園長も日頃の感謝を述べました。意見交換会では、そこで熱く話し込んだり笑顔で交流したりし、盛会のうちに終えました。

（地域連携課 橋本 茜）



〈兵庫〉ふじの里
なでしこ神戸

第2回5S Week

現場で日ごろ取り組み5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）をお披露目する第2回5S Weekを10月17～21日の5日間で開催しました。



今回はふじの里で5Sのシンボルマークを募集。職員から53作品がエントリー。全職員の投票で、「他者と協力し、業務のカイゼンという5Sの目的達成を目指すイメージ」という小山温史管理栄養士の作品がグランプリに決まりました。

さらに新たな取り組みとして、業務手順審査会を実施。オムツやりネン交換の手順、電話・来客の対応、利用者さん宅を訪問する際のマナーを標準化し、その業務手順の正確さを職員同士で競いました。

参加した職員は「日頃やって

いることの見直しができてよかった」「自分の業務が正しいと理解でき、よい学びの場になった」と述べました。

（5Sプロジェクト委員長 池内茂雄）

〈山形〉はやぶさ保育園

みんなで変身したよ

10月31日のハロウィーンパーティーを、今年はクラスごとに楽しみました。



べがさすクラスの4歳児24人

は、プリンセスやマリオ、警察官になりきって、何に変身したのか、手作りの小道具のこだわりなどを発表。「かっこいい！どうやってつくったの？」「そのドレスかわいい」と互いに褒め合う姿もありました。

園生活最後のハロウィーンとなったはやぶさクラスの5歳児25人は、お遊戯室でミニお化け屋敷を開催。ちよっぴり怖がりながら、友だちと手をつないで進みます。最後は「トリックオアトリート」の合言葉でお菓子をもらってゴール。最後は毎年恒例のハロウィーンダンスで盛り上がりしました。

（済生記者 黒田真美）

〈三重〉松阪総合病院

日曜日に乳がん検査を
12回目のマンモサンデー

10月16日の日曜日は「日曜日に乳がん検査を受けられるマンモサンデー」で、松阪総合病院では申し込みのあった43人に乳がん検査をしました。

当院では、平日は育児・介護・仕事・家事などで多忙な女性が検査できるよう、2011年から毎年10月の第3日曜日に

アンケートでは「今後も続けてほしい」という声が多数聞かれました。来年の10月の第3日曜日、みなさんをお待ちしています。

（健診センター看護師 坪（合）友友）



マンモサンデーを続けています。今年度は女性職員のみで実施し、医師による乳房触診も行ない、子宮がん検診も併用しました。受診者の反応もよく、終了後



部の田平明啓さんの2人が参加し、ともに日本DMATの隊員資格を取得しました。

研修では災害医療の基本的な考え方を知り、さまざまな状況下でのシミュレーションや、広域災害救急医療情報システム（EMIS）・衛星電話・トランシーバーの実技、標準予防策や感染症対応の考え方、ゾーニングの方法など、基本から応用まで幅広く学びました。

「まだまだ経験不足。災害訓練などで研鑽を積みたい」と高橋さん。田平さんは「同じ志を持った仲間をどんどん増やすための活動にも、積極的に参加したい」と熱く語りました。

早速10月から当院では、BCP（事業継続計画）に基づく訓練の一環で、災害時に中心的な役割を担う人材育成を目的とした独自研修をスタートしました。（済生記者 高畑貴子）

滋賀県病院

子どもの笑顔を取り戻す
虐待対応研修会

11月の児童虐待防止推進月間に向けて、滋賀県病院は10月28日に臨床研修委員会とCPT



（Child Protection Team）の共催でBEAMS Stage1研修会を開催しました。

BEAMSは医療機関向けの虐待対応プログラム。Stage1ではすべての医療関係者が虐待の早期発見・通告の意義を理解し、医療機関でのSentinel（歩哨・見張り番）として適切に行動できるようにするのが目的です。

研修には、初期研修医・救急医・内科医・看護師・助産師・薬剤師・事務員の計35人が参加。BEAMSから講師を招き、児童虐待の歴史、虐待の分類、虐待を考えるべきさまざまなサインについて聞きました。



〈愛媛〉松山老健にぎたつ苑
松山総合ケアセンターは
地域に支えられ10周年

にぎたつ苑の通所リハビリテーションがある松山総合ケアセンターは、10月30日に開設10周年を迎えました。

10周年の祝いイベントでは、山本昌也施設長が「10年経ちてケアの利用者さんも増え、広い吹き抜けスペースで解放感のある空間も、やや手狭に感じる

ほどです。今後もより良い介護・リハビリを念頭に、信頼いただけるサービス提供を職員一同心がけてまいりたいと存じます」とあいさつ。

その後、利用者さんにはワークショップなどでこのパンを召し上がっていただきながら、一緒にケアセンターの建築過程の写真を見て思い出話をしたり記念撮影したりしました。最後には10周年記念のクッキーを持ち帰っていただきました。

これからも地域に根差し、20周年、30周年を迎えられるように頑張っていきます。

（通所リハビリテーション 介護福祉士 今村純基）



**自動でふたを開閉
医療廃棄物容器を共同開発**

境港総合病院はこのたび、既存の医療廃棄物容器にセットしてふたを自動で開閉する装置を、地元企業3社（カノン、ニシモト、日本マイクロスステム）と共同開発。11月4日に3社と境港市役所を訪れ、伊達憲太郎市長に完成品を披露しました。

開発した「医療廃棄物容器電動開閉装置」は3種類の容器に対応し、コンセントでもバッテリーでも駆動でき、キャスター付きのため移動も可能。正面のセンサーで人の接近を感知しふたが自動で開きます。従来品のように、足で踏んで開閉させる際に踏み違えることもなく安全性が高いのも特徴です。

当院は7月から試作品2台を使用。医師・看護師からは「防護服を脱ぐ時や注射器を捨てる時などに使いやすい」と好評です。

（総務課 坂本佑太）

**1500人のDMAT参集
地震時医療活動訓練に参加**

（新潟）三条病院

今年99医療機関のほかに関係機関や、300隊以上約1500人のDMATが全国から参集。最大震度7の南海トラフ地震を想定した大規模な



三条病院は10月1日、大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加しました。これは毎年10月に内閣府主催で開催される訓練で、今年は愛知県が国などと連携し実施しました。

熊本病院対抗フットサル大会が11月6日に開催され、12医療機関が優勝目指して熱戦を繰り上げました。熊本県内の医療機関同士の親睦のため、年2回ほど開催するこの大会。当院は医師・看護師・放射線技師・理学療法士・臨床工学技士・事務職員などの多職種チームで参加しました。

予選では、熊本病院とみすみ病院の「済生会対決」が実現。

**済生会VS済生会も！
病院対抗フットサル大会**

熊本病院

訓練となりました。当院から参加した3人は、県営名古屋空港SCUでの広域搬送訓練に配置。航空機で傷病者を搬送する訓練に臨み、トリアージによる搬送順位の選定、他機関との連携と情報収集の重要性を学びました。

当院は中小規模病院のため、災害時には傷病者を域外の大規模病院に搬送する必要があります。今回の訓練で学んだことを生かし、有事の対応力を強化していきます。

（DMAT 隊員 大久保裕史）



結果はドローで、白熱した試合後は健闘を称え合いました。

熊本では、本大会に参加したチームで定期的にフットサルの交流戦を行なうなど、医療機関同士の交流の輪が医療以外の場でも広がっています。

ちなみに、当院にはクラブ活動支援制度があり、病院が活動資金を補助しています。野球やテニス、卓球など11クラブが存在し、計100人以上の職員がクラブ活動に参加。今大会もその支援の下で参加しました。

（済生記者 東 賢剛）

滋賀県病院

**入院中に描いた漫画で
患者の気持ちを知って**

整形外科の森崎真介・手外科部長に患者さんから手書きのオリジナル漫画「済生会滋賀県病院入院記」が贈られました。



この患者さんは9月から10月にかけて整形外科（7階西）病棟に入院。実際に受けた治療内容や闘病の中で感じたこと、主治医の森崎医師や病棟看護師とのやり取りなどを、コミカルな表現も交えリアルに病床で描きました。

作者の患者さんは「私が入院中に感じた素直な気持ちが少しでも、ほかの患者さんの勇気や



励みになればうれしいです。滋賀県病院のみなさんにも、入院患者がどんな気持ちで何をどう考えているのかが伝われば幸いです」と、作品に込めた思いを伝えてくれました。

（広報企画室 森 怜子）

**「三重」明和病院
「チョイとソコまで」
新送迎サービスはじまる**

明和病院の前に10月3日、新たな停留所ができました。明和町と三重トヨタが共同で運営する乗り合い送迎サービス「チョイソコめいひめ」の実証運行のスポンサーになったのです。

「チョイとソコまで、ごいっしょに」がキャッチコピーの「チョイソコめいひめ」。バスとタ



クシーの中間的な乗り物で、利用者が電話予約で指定した時間・場所へ送迎してくれます。実証運行は、事前登録した明和町内の65歳以上の高齢者と障害者手帳を持っている人が1回300円で利用可能。運行開始1カ月半で、このサービスをj利用し何度か来院している患者さんもいます。

より多くの人に利用いただきたい

て、明和町の地域活性化・健康増進につながるよう、当院も協力していきます。

（済生記者 石田真央）

**（北海道）老健はまなす
孫のためにつくった机など
完成度の高さにびっくり**

11月14〜19日の一週間、通所リハビリの作業活動や趣味活動の成果を展示する、恒例の文化



祭を行ないました。

ガチャボンのカプセルを利用した張り子のウサギや、色違いの布を縫い合わせた小物入れ、木目込みパッチワークや切り絵、絵手紙、習字など個性あふれる作品がずらり。「孫が遊びに来るとよく絵を描くので、専用の机を作りました」と、心温まるエピソードを添えた作品もありました。

完成度の高さに、不器用な私はただただ感心し見入ってしまえばかり。制作に打ち込む様子

岡山済生会総合病院

支援「NPOの帰り」
TOSHI-LOWさんら訪問

被災地や新型コロナウイルスによる物資不足の医療施設に支援を行なっている「NPO法人 幡ヶ谷再生大学復興再生部」代表の TOSHI-LOW さん (BRAHMAN / OAU) と木



左から塩出院長、TOSHI-LOWさん、木村ゆかりさん

興を支援するチャリティイベント「BUCHI BRIGHT CARNIVAL 2022」が倉敷アイビースクエアで開催され、TOSHI-LOW さんも参加されました。翌日、木村さんと合流して真備町の被災地と障害児施設を慰問し、その帰りに当院に立ち寄りされました。

「幡ヶ谷再生大学復興再生部」はコロナ禍で、当院はじめ済生会グループの病院にも大量の医療物資を支援してくださいました。塩出院長は「その折は本当に助かりました。ありがとうございます」とお礼を申し上げました。

(内科主任医長 川上万里)

〈愛媛〉松山乳児保育園

町には不思議がいっぱい

きりん組の1歳児17人と保育士3人で10月28日、歩いて10分ほどの三津浜商店街へ散歩に出かけました。

三津浜は古くから栄えた港町の中心にあり、江戸時代から続く白壁の家も、大正時代のモダンな医院も、現代の建物も混在している場所。ノスタルジックな気分が味わえるので、近年は



観光客も増えている地域です。町やお店の人に「かわいいね」と声をかけられ、にっこり手を振る子どもたち。趣のある船具屋さん、古民家を再利用したお店などに興味津々の様子でした。これからも町や人とのふれあいを大切にし、子どもたちに地域の魅力を伝えていきます。

(済生記者 河野敦子)

〈山口〉豊浦病院

保育園・支援学校と連携
「誰一人取り残さない」訓練

11月4日、豊浦病院と併設の



病院単独でなく、今回は支援学校や保育園と連携でき、「誰一人取り残さない」という済生会のソーシャルインクルージョン・SDGs を体現する訓練

施しました。

ひびき保育園、隣接する豊浦総合支援学校が連携し、地震災害を想定した防災訓練を実施し、約20人が参加しました。地震発生確認の放送後、看護師・事務職員が避難誘導。避難後は引率教員や保育士が人員点呼・体調調査報告し、病棟看護師が対象者の医療ケア管理を

になりました。小さな活動から取り組み、だれもがいつまでも住みつけられるまちづくりになり

熊本病院

熊本県では3施設のみ認定
一次脳卒中センターコア施設

熊本病院は10月、日本脳卒中学会の一次脳卒中センターコア施設に認定されました。11月現在、熊本県下のコア施設は当院を含め3施設のみです。

コア施設の認定要件は、①一次脳卒中センターに認定されていること②日本脳神経血管内治療学会の脳血管内治療専門医と3学会認定の脳血栓回収療法実施医が合計して常勤3人以上であること③血栓回収治療実績が年間12例以上あること④施設において24時間365日で血栓回収治療に対応可能であること⑤脳卒中相談窓口を設置することの5点。



当院は脳卒中治療において、より低侵襲な治療の推進や新たな脳血管造影装置の導入などを積極的に進めてきました。今後も、脳神経外科と脳神経内科が連携し、早期発見・早期治療が必要な脳卒中患者さんの対応に

貢献していきたいと思えます。(経営管理課課長補佐 中野哲吉)

努めていきます。

(済生記者 東賢剛)

〈滋賀〉守山市民病院

伴部長が厚生労働大臣表彰

薬事功労者厚生労働大臣表彰の伝達式が11月7日に滋賀県庁で行なわれ、診療技術部の伴正部長が表彰を受けました。

伴部長は滋賀県病院に入職し、今年で勤続36年。4年前から当院の診療技術部長兼薬剤部長を務めています。病棟薬剤業務の推進や新型コロナウイルスの管



理などに尽力。

院外でも、滋賀県病院薬剤師会の理事・副会長を歴任し2年前に会長に就任。今年1月に滋賀県で開催された第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会では、大会長としてリーダーシップを発揮しました。

今回の厚生労働大臣表彰は、昨年の滋賀県知事表彰に続く受賞で、「職場の皆様のご理解、ご協力があったの受賞です。微力ながら、今後も薬事業界の発展に貢献していきたいと思えます」と喜びを表しました。

(済生記者 中嶋元香)

〈神奈川〉わかさ保育園

みんな笑顔の運動会

わかさ保育園は11月5日、クラス単位でスマイルうんどう会を開催しました。参加人数制限をなくし、祖父母含め7人で応援に来た家庭もありました。

どのクラスも発達年齢に応じたプログラムを楽しみ、子どもも大人も笑顔です。年長組はうんどう会のタイトル曲「スマイル」に合わせてパラバルーン演技を披露。その終盤、家族が投げ入れたミニボールを空高く飛



ばす壮観のシーンで大歓声が上がりました。

11人で挑んだ大縄跳びも大成功。「子どもたちの真剣な表情や楽しげな姿に成長を感じた」と保護者が感心していました。お土産を渡すハッピータイムでは、地元の人気ゆるキャラ「金沢区幸せお届け大使・ぼたんちゃん」が登場。最後までみんなのスマイルあふれる行事になりました。

(済生記者 本倉美穂)

〔福岡〕飯塚嘉穂病院
イオンで健康相談フェア

飯塚嘉穂病院は11月3日、イオン穂波ショッピングセンター（飯塚市）で済生会健康相談フェアを開催し、90人が来場しました。

コロナ禍の開催ということで、各種相談中心のプログラムで実施。医師による医療相談や看護



師による血圧測定、薬剤師のお薬相談、管理栄養士の栄養相談、リハビリスタッフの運動相談のほか、ソーシャルワーカーが無料低額診療事業を紹介しました。中でも運動相談が大人気で、最年少の参加者は12歳。一緒に

参加した母親は「とても親切に対応してもらった」と大変感激していました。

これからもイオン穂波ショッピングセンターと連携して定期的に健康フェアを行ないながら、地域住民の健康増進に寄与していきたいと考えています。

（済生記者 松岡亜希）

山口地域ケアセンター

今年も大きなお芋とれたよ

当センターのサツマイモ畑で10月17日、なでしこ保育園の園児が芋掘りをしました。

以前はデイケア利用者さんも参加し園児と交流していましたが、コロナ禍で自粛中。それでも主任理学療法士の溝部崇史さんが、園児の楽しみを失わせまいと、畑の管理を続けています。そのおかげで今年も、園児は土を掘って収穫できました。「あつたー」「大きいね」と、あつという間に段ボール箱がいっぱいになりました（事前に、溝部さんが土をフカフカにしてくれているんです）。

「来年からは、園児とデイケアの利用者さんと一緒に芋掘りができればいいなあ」と溝部さん。



保育士ももちろん同じ思いです。

（済生記者 楊 玉華）

（山口）豊浦病院

認知症に優しい下関へ

認知症の普及・啓発が目的のマラソンイベント「Run 伴（ランとも）プラス下関2022」が10月16日に下関市で開催され、認知症を学んでいる豊浦病院の看護職が応援スタッフとして参加しました。

コロナ禍で3年ぶりのイベントは、多くのランナーがオレンジのTシャツを着て海岸沿い



の思いを伝えました。下関市が掲げる「認知症の人に優しいまち、しものせき」を目指し、これからも地域活動へ積極的に参加していきます。

（看護師 嶋野一成）

糸の張りも手に伝わる低侵襲手術ロボット

滋賀県病院

滋賀県病院は9月、低侵襲手術ロボットシステム「センハンス・デジタルパロスコピー・システム」を導入し、10月までに2例の外科手術（胆嚢摘出術と急性虫垂炎）を終了しました。

腹腔鏡下手術で手振れなく安定的な手技を可能にするのが特長の本機器。臓器の硬さや糸の引つ張り具合などが術者の手元に伝わるため、臓器損傷のリスクを軽減し、より安全な手術が可能。腹腔鏡扱いのため、腹腔鏡手術として保険収載されている術式はすべて保険診療で行なえます。



「腹腔鏡手術をより安全に提供できる。腹腔鏡手術を実施している他科にも参画してもらい、幅広い領域で患者さんのために活用したい」と、手術を担当した外科主任部長藤山准真医師。当院では、ま

シナリオ非公開で実践的に176人で災害医療訓練

熊本病院

ず外科領域で本機器の使用を進めており、年内中に10例を実施予定です。

（済生記者 西澤真由美）

震度7の地震発生を想定した災害医療訓練を10月29日に実施しました。

災害拠点病院の当院は年に一度この訓練を実施していますが、176人のスタッフが参加する大規模な実地訓練はコロナ禍のため3年ぶりでした。

今回は、①Microsoft Office 365で構築した緊急参集システム（安否確認や参集可否、到着予想時刻の把握）の利用②参加者に具体的なシナリオを非公開で行なうブライント型訓練③登院してから暫定対策本部や患者受け入れエリアを設営するゼロベース訓練④新型コロナウイルス感染症患者の受診を想定した発熱患者対応など新たな取り組み——を実施しました。



参加者は自宅で個人のスマートフォンから緊急参集システムに入手。登院後に自身の役割や担当エリアを把握して患者受け入れにあたるなど、より実践的な訓練を行ないました。

（済生記者 東 賢剛）

（愛媛）小田老健ふじの園

老健を出て地域へいきいき暮らしのお手伝い

ふじの園の主任支援相談員と主任介護福祉士の2人が10月26日、地域貢献活動として地元・小田自治会の「いきいきサロン会」に参加しました。

約20人の参加者に、2人の職員は手洗いチェッカーを用いて



手洗い方法を説明したほか、認知症予防に効果的な取り組みや生活習慣を解説、さらに健康体操をみんなで行ないました。手洗いでは洗い残しの多さにみなさん驚かれ、再挑戦する人も。認知症予防では「物忘れと記憶障害の違いは？」と質問を受けるなど、健康への関心の高さに驚かされました。

興味を持って話を聴いていたので楽しく実技もでき、有意義な時間となりました。地域に必要とされる施設を目指し、これからもサロン活動に参加していきます。

（主任介護福祉士 末廣和也）



**ダビンチ手術のトラブル
多職種でシミュレーション**

加須病院は6月の導入から5カ月が経過したタイミングで、ロボット手術中の緊急トラブルを想定したロールアウトシミュレーションを行いました。

当院は、泌尿器科と外科部門で手術支援ロボット「da Vinci Xi」によるダビンチ手術を実施し、順調に症例を重ねています。今回は「出血した場

に備えましょう」と話しました。
(済生記者 原 衣里奈)

〈埼玉〉 加須病院

**〈静岡〉 特養小鹿苑
職員研修で腰痛講座**

小鹿苑は9月27日、外部講師3人による腰痛講座を実施し、職員34人が参加しました。

前半は、体・筋肉の仕組みや腰痛の原因の座学。「前かがみ」「持ち上げる」といった姿勢を取る人が多い介護職員は、腰に大きな負担がかかっているのを改めて感じました。

後半は実践です。腰痛対策は姿勢がとて大切なため、最初



に猫背か反り腰かをセルフチェック。自分の姿勢を把握してから、いざトレーニング開始。

ふくらはぎや太ももの裏側を伸ばすなど気持ちのよいトレーニングから始まり、徐々に脚を上げ下げする腹筋運動や、肘とつま先で体を支える体幹トレーニングのプランクなどへ難易度が上がっていきます。「もう限界!」と諦めかけた職員もなんとか完走し「続けていけそう」と述べるなど、腰痛対策への意識変化を感じました。

(事務員 杉山香夢)

**〈福岡〉 飯塚嘉穂病院
緩和ケア病棟で秋の曲**

院内音楽バンド K's Music Club (ケーズミュージッククラブ) が10月26日、ハロウィーンコンサートを緩和ケア病棟で開催しました。

バンドはピアノ・ユーフォニアム・トロンボーン・アルトサクソフーンの構成で、「もみじ」「まっかな秋」など秋にまつわる6曲を演奏。

鑑賞したご夫婦は「職員が演奏しているの? 知っている曲ばかりでとてもよかった」と大

変喜んでいました。
毎回、患者さんに大好評の演奏会。音楽で癒やしを感じてもらえるよう、今後も演奏する機会を増やしていきたいと思っています。

(済生記者 松岡亜希)



**〈埼玉〉 川口総合病院
対面での災害対策訓練**

川口総合病院は10月12日、3年ぶりに対面での災害対策訓練を実施しました。当院のほか鴻巣病院と連携先の齋藤記念病院の職員と、模擬患者役の川口看護専門学校を学生を含む計126人が参加しました。

合「地震が起きた場合」の2パターンの緊急トラブルを想定し訓練。

医師・看護師・臨床工学技士が緊急時の動きを確認し、「何が起るか」「何が必要になるか」「どう動くのか」などを活発に意見交換しました。

ダビンチ手術を担う多職種チームで、定期的にロールアウトシミュレーションを行なうこと、そして普段から連携や情報共有などのコミュニケーションを積極的に行なうことが大切だと感じました。

(経営企画課 蓬田絵里子)

**DMAT 隊員として
初めての本部活動訓練**

滋賀県病院

愛知・静岡・三重・和歌山の4県が南海トラフ地震で被災——こう想定した政府主催の大規模地震時医療活動訓練が10月1日に行なわれ、当院のDMATチームが参加しました。

筆者は愛知県の活動拠点本部で活動。地域の病院にどのような支援が必要なのかを把握する

**静岡県心身障害者
ケアセンター**

基本理念の塗り絵が完成

「私たちは、あなたと社会をつなぎあなたの自立生活を応援します」——当センターが今年度一新した基本理念です。

従前は「一人ひとりが地域の一員として自立した日常生活を営むことができるよう、利用者が主役となり地域福祉に貢献できる事業所を目指します」でした。より簡潔で利用者さんにも



ための情報収集を担当しました。錯綜する多くの情報を迅速に整理することの大切さを改めて認識。途中、余震が起こったとの想定でEMIS (広域災害救急医療情報システム) の確認・入力も行ないましたが、自分たちの身を守る行動が大切であることも再確認しました。

コロナ禍で訓練もままならぬ中、今回がDMAT隊員になって初めての本部活動訓練でした。いつ起こるか分からない災害に備え、いつでも活動できるように日々研鑽を積んでいきます。

(DMAT 隊員 尾島由美)

目的は大規模災害発生時に、多数の傷病者に対し職員が落ち着いて正しくトリアージ(識別救急)を行ない、適切な処置・搬送を行なうこと。震度6強の地震発生時のシナリオで、実際のトリアージタッグも使用。コロナ禍対応で、傷病者のコロナ感染(疑い含む)を識別するプレトリアージエリアも設けました。

参加者にはシナリオを知らせず訓練しましたが、各エリアが臨機応変に対応・連携し、スム



ーズに訓練できました。安全対策委員会統括責任者の石戸保典医師は「災害拠点病院として定期的に訓練し、地域の病院との連携も強固に保ちながら万が一

職員にも分かりやすく、発信力がある言葉をと、職員全員で見直したのです。

刷新した基本理念を利用者さん

(済生記者 岡本龍馬)

んと共有するため、9月の活動で基本理念の塗り絵を作成。総勢23人の利用者さんが3日かかりで、縦90センチ×横120センチの大作を完成させました。

一文字ずつ色を塗り、華やかな作品に仕上げました。「基本理念が身近で分かりやすくなった」と好評です。塗り絵はフロアのどこから見ても見える壁上部に掲げました。当センターは、利用者さんの日常生活・就労などの自立に結びつく活動を目指し、今後とも進めています。

〈福岡〉二日市医療福祉センター

イオン筑紫野で健康福祉フェア

二日市医療福祉センターは11月13日、イオンモール筑紫野で健康福祉フェアを行いました。コロナ第8波が危ぶまれる中でしたが、「こんな時だからこそぜひとも開催して、二日市病院が頑張っていることを地域にアピールしていこう」という壁村哲平院長の一声で開催が決定しました。

翌日14日の世界糖尿病デーにちなみ、糖尿病予防の講演会や血糖測定を中心に、骨密度測定・血管年齢測定・INBODY(体成分分析)などの各種検査や栄養教室などを実施。

最新型電動車いすの試乗コーナーや介護支援のパワースーツ体験、院内コンビニの一角にある障害者施設アンテナショップ「なでしこSHOP」に、商品提供している障害者福祉施設のパザールなど盛りだくさん。

イオンの開店と同時に駆けつけてくれた人をはじめ1500人に来場いただき、開催を重ねたいというモチベーションも得



静岡済生会総合病院
岡本病院長のがんの授業

静岡好史病院院長は10月21日、

静岡市立大里中学校で「がんの授業」を行いました。静岡市教育委員会によるがん教育の一環で、がんの正しい知識を伝え、健康と命の大切さを学びます。がんができる仕組みや予防法を学んだ約200人の生徒たち。「授業で分かったことを生かして、家族みんなでがん予防



〈大阪〉野江病院

地域の関係者150人と大規模災害訓練

野江病院は10月30日、城東消防署協力の下、第4回大規模災害訓練を実施し、当院職員や近隣医療機関をはじめ、城東区役所・城東区医師会・野江看護専門学校(約150人)が参加しました。



大阪市内を震源とする震度6強の地震が発生したと想定。各部署の被災状況確認・報告のほか、災害対策本部の設置などを

に取り組みたい」「おとなになってタバコを吸ったり、お酒を飲みすぎたりするのはやめようと思った」と述べました。自身や大切な家族の命について考える貴重な時間となったようです。(済生記者 酒井あい)

奈良病院

ケアマネ合同事例検討会

ケアプランセンターすずらんは11月10日、奈良市内の他事業所のケアマネジャー3人を招いて合同事例検討会を開催しました。

はじめに、奈良病院リハビリテーション部の吉原隆石主任(理学療法士)が高次脳機能障害について、どのような声掛けや関わり方が望ましいのか、実際のエピソードを交えて講義。その後の事例検討会では、在宅生活が継続困難な事例を選択。質疑応答・ディスカッションを通し、本人・家族の意向の整理、家族不和へのアプローチ方法、必要と思われるサービスなどについて意見交換しました。合同事例検討会はケアマネ同士の貴重な情報交換の場でもあり、定期的に開催しよりよい支



援につなげていきます。(ケアプランセンターすずらん 介護支援専門員 関 悠妃)

〈山形〉健康増進センターめぐみ

ごみ拾いだって運動です

健康増進センターめぐみは10月28・29日に「めぐみまつり2022」を開催し、地域から延べ300人が参加しました。今回は、感染予防対策を継続しながらできる健康づくりとSDGsがテーマ。病院脇の河川敷をゴミ拾いしながらウォーキングしたり、フィンランド発祥のスポーツ・モルック(木の棒を投げて木の的に当てるボウリングに似た競技)に初挑戦したり、不要になった布切れを利用したハンガーづくりや野菜

慈道さんも2016年に胃がん治療のため入院し、つらい治療を乗り越えたがんサバイバー。「入院中は孤独を感じたけれど家族や周りの温かい思いに励まされ感謝しています。今度



は私が、同じようにつらい思いをしている患者さんを笑顔にしたい」と、ボランティアで参加してくれました。「皆さんの笑顔が私の元気のもと」という慈道さん、カラフルですてきな笑顔の時間をありがとうございました。(済生記者 吉川千恵)

(済生記者 吉川千恵)



の切れ端でのエコバッグづくりをしたり。それぞれが自分の体力に合わせてプログラムを選択し2日間のイベントを満喫しました。みなさんのマスク越しの満面の笑顔が印象的で、「久しぶりのイベントが楽しかった」という声をたくさんいただきました。(健康運動指導士 遠藤美子)

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

検査前説明動画視聴システム導入

京都済生会病院
五條外来看護係長

「外来看護」2022年冬号（日経研）の「特集1 患者本位で考える外来検査体制の見直し」に当院の五條学外来看護係長が「検査前説明動画システム導入と進め方」を寄稿した。



これまで書面で行なっていた検査前説明を、2021年から動画視聴に移行。その説明動画は五條看護係

い環境をつくり、さらなる業務改善を目指したい」と締めくくっている。

（企画広報室長 松岡志穂）



大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください

ごめんね。大きく産んであげられなくて

「小さくてハンディがあっても十人十色、その子なりにマイペースで成長すればいい」——こう願いを込め、岡山リトルベビーサークルTOMOを立ち上げた代表の田井優香さんは、三男を低出生体重児で出産した当院の作業療法士です。

リトルベビーサークルは、小さな赤ちゃんを産み不安を抱える保護者の集まりで、全国各地で設立が進んでいます。サークルでは受け取ってうれし



かったはずの母子手帳を見るのがつらいと、早産経験者の母親が打ち明け合います。「発達の記録は『いいえ』

長が薬剤部などの提言を受けながら作成したものである。患者には、二次元バーコードから自身の端末を利用して視聴するか、来院し検査前に動画を見るよう案内している。動画視聴後には患者の理解度を確認し、補足説明をしている。

動画システム稼働後のアンケート調査では88%の患者が「動画視聴でも十分理解できる」と回答。職員からも業務改善につながったとの意見が多数集まった。

五條看護係長は「今後も検査説明動画を活用し、スタッフが働きやす

みを慈しめるのは親の特権です。
（本部広報室 山内 敦）

ブラボー！ ばかうまい！

新型コロナウイルスと闘う当院に応援のチヨコレートを届けてくれた就労継続支援B型事業所Z A Q Tを10月21日に訪問しました。

運営母体は医療法人灯信会さざ波てんかん神経クリニック。診療だけではケアできない精神面・身体面のリハビリを行ない、本来あるべき生活に戻るまで利用者さんをサポートするため3年前に立ち上げました。

「失敗してもやり直せる」「フードロスが少ない」「加工性のよさ」「各国の豆を扱うことで、世界が広が

る」などの理由から、Z A Q Tではチヨコレートづくりを選択。利用者

さんはカカオ豆の選別や殻むき、加工など、自分に適した作業を分担しています。併設のカフェ兼店舗「C A C A O B R A V O !」では人気のチヨコレートドリンクも味わえます。

丁寧で作られたチヨコレートは、「ばかうまい！」の一言。見学を快諾してくれた中村幹子理事、ありがとうございます。通信販売もしているので、全国のみなさんも食べてみてください。

（静岡済生会総合病院

済生記者 酒井あい）

★丁寧に作られたばかうまいチヨコレートですって!? 「C A C A O B R A V O !」で検索しなすや。

（メディカル・リーフ 平山果奈）



Uさんと思い出を巡る

先日、入居者Uさんの思い出の場所、筆者の母校でもある滋賀県済生会看護専門学校を訪問しました。Uさんは1996年の新築移転工事で左官として働いた人。そういえば居室から向かいのレンガ調の校舎



をよく、じっと眺めています。

「Uさん、散歩がてら看護学校を見に行きませんか」と言うと、「行ってみたい」の返事。看護学校に連絡すると「ぜひ校舎も見学してください」と快諾です。Uさんは時折体調を崩しましたが、「看護学校へ行きましょうね」と声をかけるたび、うれしそうになすきました。

いよいよ訪問当日、心配の体調もいつも以上に落ち着いて、副校長が出迎え校舎案内してくれました。

「うっすらとしか覚えてないなあ」とUさん。校内を進むうち徐々に記

憶がよみがえり、体育館の内装をしたこと、エントランスの円柱の丸みを出すのが大変だったことなどを、笑顔で話してくれました。

授業を終えた学生とも話ができて「いい思い出になったわ」と満足げ。この表情を見られた私たちにとっても喜ばしい一日になりました。

（滋賀・特養淡海荘

看護課 西田美季）

★西田さんとUさん、それぞれの思い出が詰まった校舎で共通の思い出ができましたね。

（メディカル・リーフ 平山果奈）

日本皮膚病学の開拓者を訪ねて

11月初め、武生公会堂記念館（福井県越前市）で開催中の特別展「日本皮膚病学の開拓者 土肥慶蔵」展を見に行ってきました。

土肥慶蔵は明治時代に日本皮膚科学会を立ち上げた偉人。彼の残した「日本皮膚病毒菌譜」は皮膚疾患のアトラスで、日本に3部しか現存しません。特別展はこの貴重な菌譜（図鑑）を中心に、土肥慶蔵の生い立ちから日本の皮膚科学に対する多大な貢献、故郷への思いなどをわかりやすく展示しています。

本誌2021年12月号（No.110）で紹介しましたが、この「日本皮膚病毒菌譜」は当院の中川浩一医師



が越前市に寄贈したものの、特別展初日には中川医師によるギャラリートークが行なわれ、たくさんの方の市民が聞きに来ました。

ちなみに土肥慶蔵の誕生地は、武生公会堂記念館の向かいです。

（大阪・富田林病院

総務課 小谷知広）

★中川先生には本誌20年9月号で、皮膚がん撲滅を目指した活動をわかりやすく紹介いただきました。お話もぜひ伺ってみたいです。

（メディカル・リーフ 原澤一也）

#カエル好きな人となりがりたい

「カエルのかわいさを広めたい」の一心で、最近SNSでカエルのショートムービーを上げています。

もともと面倒くさがりなので、SNSもおっくうなんです。カエ

ルのために頑張っています。動画を上げるたびに閲覧数が伸び、「カエルかわいいですね」などのコメントをもらって、モチベーションは爆上がり。こんな僕でも、今のところは続いています。



動画制作は始めたばかりで、アプリの使い方に悪戦苦闘。うまくいかないこともしばしば……。みなさんは動画編集どうやってますか？ おすすめのアプリとかあったら教えてください！

(福岡・飯塚嘉穂病院)

済生記者 春口勇介

★「好きこそものの上手なれ」ですよ、春口さん。見出しのハッシュタグで春口カエルも見つかる？

(メデイカル・リーフ 原澤一也)

花には水を、妻には愛の手紙を

10月の爽やかな今日は、当院の訪問看護利用者Sさんの奥さんの誕生日。そこで訪問看護師の私が育て

きつけです。

この秋はコロナ禍の感染対策の基本・手洗いを呼び掛ける作品を制作しました。利用者さんは折り紙や貼り付けるパーツを選び、思い思いに制作。折り紙が上手な利用者さんも苦手な利用者さんも一生懸命に取り組み仕上げました

個性豊かな出来栄の作品は、パ



ウチ加工をして手洗い場などに掲示し注意喚起に役立っています。

(神奈川・横浜金沢医療福祉センター)

済生記者 高木裕子

★とてもかわいい作品です！楽しく手洗いができますね。記事を見て感激しました。(いまいみさ)

インスタはじめました

遅ればせながら、唐津病院もインスタグラムを始めました。

たお花にSさんの感謝の言葉を添えてプレゼントしました。

にこやかに受け取ってくれた奥さんの傍らで、Sさんは少し照れた様子。仲良し夫婦の表情からいんなんが伝わってきます。

当院の訪問看護師は2人だけ。でも、地域との密着度は大規模訪問看護ステーションにも負けません！

Sさん夫婦の思いに触れ、地域と濃密につながりながら活動できていると再認識し胸が熱くなりました。

日田病院は4月に訪問看護ステーションを開設予定です。この地域と、この笑顔と歩むことを忘れず、患者さん・ご家族のふつうの在宅生活を支えていく——それを大事にして頑張っていきます！

(大分・日田病院)

看護師 長谷あけみ

★地域の命を本当に支えるのは、数



SNSをやるのは初めての筆者。インスタ時代の若いスタッフに広報委員会に入ってもらい、一から話し合いを開始。「誰を対象にするのか?」「何を発信するのか?」「どうやって投稿するのか?」——ホームページや広報誌制作とは勝手が異なり、話が難航することもしばしば。ある程度準備が整った9月、練習がてら非公開で投稿をスタートし11月から本公開。週1、2回のペースで投稿しています。



映える写真の撮り方や加工の仕方などはまだまだ勉強中ですが、どんな改良していきますので、右のQRコードか「[Karatsu_saiseikai]

ではなく、きつと長谷さんのような心です。(本部広報室 山内 敦)

岡本看護師、銃剣道で団体出場

10月に開催された第77回国民体育大会(いちご一会とちぎ国体)の銃剣道に、7階西病棟勤務の岡本共平看護師が出場しました。

銃剣道は日本の伝統的な武術・槍術の突き技を基調にして、明治初期に創成された武術です。剣道に似ていますが、竹刀ではなく「木銃」を使い、相手の喉や胸への突き技のみの3本勝負で2本先取した方の勝ち。競技人口の約9割が自衛官という珍しい競技です。



岡本さんが銃剣道に出合ったのは小学生で、近所に銃剣道の道場がありました。中学・高校では剣道を行ないながら、現在まで銃剣道の練習も続けてきました。

今回は残念ながら初戦敗退となりましたが、2025年の国体開催地は地元・滋賀県。「代表に選出されるのは難しいかもしれないが、めったにない地元開催の国体なのでぜひ出場したい」と新たな目標に向け意欲を燃やす岡本さんです。

(滋賀県病院)

済生記者 西澤真由美

★多忙な業務の中鍛錬に励まれているのですね。相手と対峙する時の緊張感と集中力……思わず武者震い。

(デザイン担当 OVO 大谷信之)

折り紙で交流広がる

いまいみさんの大ファンで、たくさん折り紙作品で若草病院を彩っていると、当欄4月号に載った奈良岡朋子看護師。その腕を生かし5月から、障害福祉サービス事業所・金沢若草園の利用者活動で折り紙ボランティアを始めました。

金沢若草園は木曜午前若草病院本館1階で、利用者さんの職業体験を兼ね物販活動をしています。その際、院内に展示された奈良岡看護師の折り紙作品を見て声掛けしたのが

広告索引

三井住友銀行
——表紙見返し[表紙2]

次号予告

済生 No.1123 [令和5年1月号]

済生会の不易流行論 (172) 炭谷 茂

NEWSな済生人 済生会交差点

この人 田中俊介

口福につぼん (64) ゆら鯛の塩釜焼き(愛媛県愛南町)

てづくりおもちゃ いまいみさ

で検索し、ぜひフォローをお願いします。

今回は済生記者のネットワークを利用し、各施設の担当者に相談することができ大変心強く感じました。みなさんありがとうございました。

(佐賀・唐津病院)

済生記者 相島蘭香

★楽しいインスタで唐津に行った気持ちになります。でも筑肥線に乗って唐津湾を眺めながら行くのがやっぱり一番かな?

(本部広報室 河内淳史)

済生会フェアを盛り上げました

老健はまな荘・特養たかね荘・居宅介護支援事業所さいせいも、11月6日の広島病院済生会フェアにブースを出展しました。6月まで支部長を兼ねていた、はまな荘の隅井浩治施設長が「支部の施設もフェアを盛り上げよう」と話し、当施設を中心に企画しました。

ブースには、介護相談コーナーと、福祉用具を身近に感じてもらうための福祉用具体験コーナーを設置。来

think!

sync!



知る・見つける・支える

ソーシャル インクルージョン

Social Inclusion **シンク!**

はじめまして、シンク!です。

済生会が推進するソーシャルインクルージョンを、
多くの人々に知ってもらうためのウェブメディアができました。

サイト名は「知る・見つける・支える ソーシャルインクルージョン」。
愛称の「シンク!」は、social inclusionから名付けました。
think (思いを巡らせる)、sync (共感する、シンクロする) という意味も込めています。

済生会内外のさまざまな活動の記事を通して、ソーシャルインクルージョンの
実現を目指す人々の思いを知り、共感し、そして仲間になってほしい。

それがシンク!の思いです。

知る・見つける・支える

ソーシャル インクルージョン

Social Inclusion **シンク!**

<https://www.socialinclusion.saiseikai.or.jp/>



介護体験中

場者に移乗ボードや床走行式リフトを使ったベッドへの移乗体験をしてもらい、「今後のために」と夫婦で体験した人もいました。相談コーナーでは「どこへ相談すればよいのかわからない」との声もありました。フードロス対策でお菓子も配布するなど、SDGsに配慮した活動も実施。次回も新しい企画を練って参加したいです。

(広島・老健はまな荘 済生記者 佐藤 聡)

★写真裏に写っているのが床走行式リフトでしょうか? 確かに普段見慣れない用具です。貴重な体験になったことと思います。

(印刷担当 株白橋 茂野洋一)



次は何にする? 「出前サークル」

本部職員の有志が集う「出前サークル」では最近、昼食のデリバリーを頼むことがあります。中でも「新福菜館麻布十番店」のヤキメシは何度も注文する職員がいるくらい大人気です。

でも、配達可能な時間が限られているみたいで、食べる機会に恵まれなかったのですが、ついに注文することができました。見た目は茶色みが濃いですが、塩加減が丁度よく、醤油の香ばしさが抜群のとてもおいしいヤキメシでした。本店は京都にあり、全国で16店舗あるみたいなので、おススメです!

(本部総務課 杉山 菜央)



本部事務局ヤキメシ男子

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療救療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで111年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療救療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで111年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

職員数は全国で約6万4000人。

済生 [令和4年12月号]
THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和4年12月10日発行
通巻第1122号 (第98巻第12号)

編集兼
発行人 炭谷 茂

発行所 社会福祉法人財団法人済生会
〒108-0073
東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311 (代)
FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1

© 社会福祉法人財団法人済生会



なでしこ
ファーム



熊本、松山から「冬の愛」をお届けします!



熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428



松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。
熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出店し、済生会のホームページ上で営業中です。
商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に迫いつき追い越せと、一生懸命つくりました。
どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー (左上から時計回りにマープル、ゴマ、プレーン、クルミ)



♥ギフトボックス(クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)



★くまドレーズ (くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーズ)



◆元祖クッキー (片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

済生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。

